

平成25年度
(平成24年度分)

**教育委員会の事務の管理
及び執行状況の
点検・評価報告書**

平成25年9月
大野市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	点検・評価について	2
III	平成24年度大野市教育委員会の活動状況	
1	教育委員会の会議開催等の状況	5
2	教育委員の活動状況	8
IV	教育委員会関係施策の実施の取り組み	
1	平成24年度の教育方針	10
2	点検評価実施結果の概要（各課）	
	・教育総務課	12
	・社会教育課	22
	・文化課	33
	・スポーツ課	43
V	学識経験者の意見	
1	評価委員会	54
2	点検評価報告書についての意見	55
VI	終わりに	59

参考資料

関係法令	60
平成24年度事務事業評価対象事業一覧表	61
大野市教育理念	67
教育委員会組織図	68

I はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により、平成20年4月から、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。教育委員会が自らの事務を点検、評価することによって、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たすことを目的としています。

大野市教育委員会では、法制度の趣旨に基づき、平成20年度（平成19年度分の事業を対象）から報告書を作成して公表しています。

今年度は平成24年度事業の点検評価を実施し、その結果を本報告書にまとめ、市議会に提出するとともに公表します。

参考

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」抜粋

第27条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅱ 点検・評価について

- ◆対象期間 平成24年度（平成24年4月1日～平成25年3月31日）
- ◆対象範囲 平成24年度大野市教育方針に基づき実施した、大野市の事務事業評価システム（※）の対象となった129事業（教育総務課40、社会教育課36、文化課31、スポーツ課22）の中から、主要な26事業（教育総務課6、社会教育課7、文化課6、スポーツ課7）、（うち22事業は前年度より継続）をこの評価の対象事業として選定しました。
- ◆点検・評価の方法 事務事業評価システムの評価シートを活用するとともに、学識経験を有する者の意見を聴取した上で、基本施策ごとに主要事業の実施状況を点検及び評価しました。

【対象事業一覧】

網掛け部分は昨年度評価対象とした事業

基本施策	課等名	点検及び評価を行う 事務事業名	事業費（千円）		
			24年度 決算額	23年度 決算額	増減
心豊かな 人づくり	教育総務課	ふるさと文化創造事業	530	819	-289
	教育総務課	適応指導教室事業	6,195	6,062	133
	教育総務課	活力ある学校づくり推進事業	3,543	3,193	350
	教育総務課	特別支援教育支援事業（※1）	23,206	14,549	8,657
	教育総務課	小中学校連合音楽会事業	495	476	19
	教育総務課	学校生活サポート推進事業	115	308	-193
	社会教育課	生涯学習推進事業	705	879	-174
	社会教育課	生涯学習人材活用事業	1,133	1,144	-11
	社会教育課	青年活動推進事業	1,785	1,585	200
	社会教育課	放課後子ども教室事業	8,612	8,309	303
	社会教育課	ふるさと大野今昔物語事業	2,528	—	2,528
	公民館	地域・人づくり学習事業	5,521	5,293	228
	図書館	子どもの読書活動推進事業	1,015	976	39
豊かな心を育てる 文化力の育成	文化課	市美術展開催事業	674	633	41
	文化課	文化公演事業	7,135	4,278	2,857
	文化課	地域文化振興事業	469	474	-5
	文化課	文化財環境保全整備事業	534	512	22
	本願清水イトヨの里	イトヨ保護研究経費	855	350	505
	本願清水イトヨの里	イトヨの里保護啓発推進事業	293	1,060	-767

活力あふれる スポーツ社会の 実現	スポーツ課	生涯スポーツ推進事業	2,210	2,210	0
	スポーツ課	越前大野名水マラソン開催事業	16,000	17,000	-1,000
	スポーツ課	各種大会開催事業	4,513	4,669	156
	スポーツ課	学校体育施設開放事業	6,538	6,396	142
	スポーツ課	スポーツ少年団育成事業補助	665	674	-9
	スポーツ課	全国大会等出場参加補助	1,285	1,453	-168
	スポーツ課	スポーツ交流大会開催事業補助	359	431	-72

(※1)事業名変更

※【事務事業評価システム】

大野市では、事務事業評価システムを構築し、事務事業の整理合理化、経費全般の節減合理化及び予算の適正な執行を図っています。

平成19年度よりこのシステムを本格導入し、効率的・効果的な行政運営による行政サービスの向上と職員の意識改革、評価結果の公表による市の行政運営の透明性の向上を目指しています。

評価の仕方は、管理運営経費や国、県の補助事業などを除く主要事業について個別に評価シートを作成し、事業について成果指標を設定し、公共関与の必要性や事業の有効性、効率性を評価し、上位者による一次評価、二次評価により評価を行うものです。

平成23年度からは、それまで翌年度に行っていた評価を、進捗状況の確認や次年度予算要求に反映できるよう、年度途中で評価を行うよう改善をしています。

市の事務事業評価の対象になった教育委員会の全事業については、巻末の「平成24年度に事務事業評価の対象となった教育委員会関係の全事業」一覧表に掲載しました。

◆「事務事業評価シート」の見方

【担当者の評価】…各担当において評価

市で実施している事務事業評価により、①公共関与の必要性、②有効性、③効率性の3点から、評価をしました。

① 公共関与の必要性…緊縮財政・行政改革の状況下で、市の関与を精査するために記入。

○市が関与する必要性の有無、税金を投入することが適切であるかどうか。

② 有効性…目的達成に向けて事業が有効に働いたかどうかを記入。

○市の政策や目的に一致しているほど有効性が高い。

③ 効率性…実施した事業の手法や状況について記入。

○市の費用をかけずに最大限の事業内容を行えば、効率性が高い。

【一次評価】…一次評価者（課、室長等）による総合評価

【二次評価】…二次評価者（部、局長等）による総合評価

①～③に基づく総合評価…事業の実施状況について総合的に判断して記入。

評価基準

A：適切（十分）に実施できた。

B：概ね適切（十分）に実施できた。

C：やや不適切（不十分）であった。

D：不適切（不十分）であった。

Ⅲ 平成24年度大野市教育委員会の活動状況

1 教育委員会の会議開催等の状況

(1) 大野市教育委員会委員（平成24年4月1日）

役 職	氏 名	職 業
委員長	洞 口 幸 夫	無 職
委員（委員長職務代理者）	清 水 美 那 子	会 社 員
委員	山 川 秀	医 師
委員	金 森 朗 子	無 職（保護者委員）
委員（教育長）	松 田 公 二	

大野市教育委員会委員（平成24年10月11日）

役 職	氏 名	職 業
委員長	洞 口 幸 夫	無 職
委員（委員長職務代理者）	清 水 美 那 子	会 社 員
委員	山 川 秀	医 師
委員	妙 願 貴 子	無 職（保護者委員）
委員（教育長）	松 田 公 二	

(2) 教育委員会の開催状況

- ・開催回数 12回（定例会12回 臨時会0回）
- ・議 案 20件
- ・付議・報告事項 46件

回	開催日	案件	審議結果
1	4月26日	議案第17号 大野市社会教育委員の選任について 議案第18号 大野市図書館協議会委員の選任について 議案第19号 専決処分の承認を求めることについて （要保護・準要保護児童生徒就学援助費支給事業実施要綱の制定） 議案第20号 専決処分の承認を求めることについて （教育委員会事務決裁規程の一部改正）	原案可決
		・学校評価について ・指定学校変更申請許可について ・小中学校長と語る会について	

回	開催日	案件	審議結果
2	5月30日	議案第21号 大野市スポーツ推進審議会委員の選任について ・大野市文化財保護審議委員会及び大野市博物館運営協議会委員の選考基準について	原案可決
3	6月26日	議案なし ・小中学校の児童・生徒数の推移について ・学校給食の民間委託について ・市指定文化財 田村又左衛門家屋敷の整備について ・平成25年度県への要望事項について ・6月補正予算の審議結果・一般質問について ・教育委員会所管施設の耐震診断の実施について ・指定学校変更申請許可について ・教育懇談会の開催について	
4	7月30日	議案なし ・教育委員会点検・評価報告について ・就学前の子どもの現状について ・大野市公共施設再編方針について ・視察研修について	
5	8月27日	議案なし ・9月補正予算要求について ・振興実施計画の策定に係る政策課題について ・公共施設再編方針(案)について	
6	9月26日	議案なし ・公共施設再編計画における和泉地区の施設について ・市制60周年の提案事業について ・9月定例市議会の審議結果について ・学校訪問の日程について	
7	10月23日	議案第22号 大野市文化財保護審議会委員の選任について 議案第23号 大野市博物館運営協議会委員の選任について 議案第24号 大野市私立幼稚園就園奨励費補助金交付要綱の一部改正について 議案第25号 大野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価について 議案第26号 大野市公民館等嘱託職員(社会教育指導員)の人事異動方針案の承認について ・教育費平成23年度決算の報告と決算特別委員会の審査結果について ・市長表彰の内申、報告について ・指定学校変更申請許可について	原案可決

回	開催日	案件	審議結果
8	11月19日	議案なし	
		<ul style="list-style-type: none"> ・学校事故裁判の和解について ・12月補正予算要求について 	
9	12月27日	議案第27号 平成25年度教職員人事異動方針について	原案可決
		<ul style="list-style-type: none"> ・文化会館のあり方や整備の方向性について ・市議会12月定例会の報告について ・平成25年度教育委員会の取組みについて ・指定学校変更申請許可について ・嘱託職員の募集について 	
10	1月28日	議案第1号 平成24年度大野市社会教育功労被表彰者の承認について	原案可決
		議案第2号 大野市体育施設設置条例の一部を改正する条例案について 議案第3号 大野市体育施設管理運営規則の一部を改正する規則案について	
		<ul style="list-style-type: none"> ・会議録のホームページでの公開について ・傍聴のあり方について ・指定学校変更申請許可について ・平成25年度大野市教育方針案について 	
11	2月26日	議案第4号 平成25年度大野市教育方針の策定について	原案可決
		議案第5号 大野市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則案について 議案第6号 大野市教育委員会嘱託職員の任用に関する運用基準について	
		<ul style="list-style-type: none"> ・幼保一体化について ・旧蕨生小学校跡地等の活用について ・指定学校変更申請許可について ・感謝状贈呈式について ・平成24年度卒業式の案内について ・平成25年度予算の概要について 	
12	3月28日	議案第7号 大野市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する規程案について	原案可決
		議案第8号 大野市ブックスタート事業実施要綱の一部を改正する要綱案について 議案第9号 大野市指定文化財の指定解除について	
		<ul style="list-style-type: none"> ・3月定例市議会審議結果について ・平成25年度人事異動について ・指定学校変更申請許可について 	

2 教育委員の活動状況（教育委員会以外の主なものをあげてあります。）

月 日		活動内容
4月4日	水	新採用・他管転入教職員等研修会(中会議室)
5月27日	日	第48回越前大野名水マラソン
6月22日	金	校長会「教育委員と語る会」(職訓センター)
6月24日	日	第55回市民総合体育大会陸上競技(ふれあい公園)
6月30日	土	青少年健全育成推進大会(めいりん)
7月14日	土	第26回大野市小学生相撲選手権大会(エキサイト広場)
8月1日	水	教育懇談会
8月20日	月	「いじめ等問題行動をなくす」福井県全体会議(フエニックスプラザ)
8月24日	金	大野市美術展開会式
8月26日	日	大野市美術展表彰式
8月28日	火	県女性教育委員研修会県教育長と語る会
9月7日	金	小学校連合体育大会(ふれあい公園)
9月20日	木	教育委員研修(兵庫県豊岡市、朝来市ほか)
21日	金	
9月27日	木	中学校連合音楽会(文化会館)
//	//	奥越ブロック壮年リーダー研修会(めいりん)
10月7日	日	第16回大野市スポーツレクレーション祭(エキサイト広場)
10月10日	水	東海北陸六縣市町村教育委員会連合会理事総会(めいりん) 研修会(宝慶寺ほか)
11日	木	
10月15日	月	教育委員学校訪問(阪谷小、富田小、尚徳中、有終南小)
10月17日	水	小学校連合音楽会(文化会館)
10月23日	火	教育委員学校訪問(有終東小、小山小、開成中、下庄小、陽明中)
10月25日	木	全国市町教育委員会連合会第3回理事会(鹿児島)
26日	金	
10月28日	日	第46回大野市総合文化祭中学校吹奏楽祭(文化会館)
10月31日	水	教育委員学校訪問(和泉小、和泉中)
//	//	「いじめ等問題行動をなくす」福井県全体会議(県立大)
11月5日	月	教育委員学校訪問(有終西小・乾側小・上庄小・上庄中)
11月18日	日	第47回奥越ふれあい駅伝大会(ふれあい公園)
11月19日	月	教育委員と市長の懇談会(横会議室)
11月28日	水	小学生ふるさと学習交流会(文化会館)
1月13日	日	成人式(文化会館)

月 日		活動内容
2月3日	日	第56回市総体冬季スキー競技会（九頭竜スキー場ほか）
3月2日	土	第19回IZUMIクロスカントリースキー大会（DINOU スキーランド）
3月3日	日	第34回九頭竜スキー選手権大会（九頭竜スキー場）
//	//	大野市生涯学習フォーラム（めいりん）
3月12日	火	市内中学校卒業式（4中学校）
3月14日	木	市内小学校卒業式（有終西・有終南・有終東・阪谷・富田） 幼稚園卒園式（富田幼）
3月15日	金	我が家のお宝展（平蔵）
//	//	市内小学校卒業式（小山・乾側・下庄・上庄・和泉） 幼稚園卒園式（小山・上庄幼）
3月28日	木	退職教職員感謝状贈呈式（結とぴあ）

平成24年度 大野市教育方針

ふるさと大野の教育の普遍のバック・ボーンである大野市教育理念に基づき、古来より大野の先人が培ってきた豊かな人間性をしっかりと受けとめ、学び合い、優しく、賢く、たくましい大野人になること、そして大野人を育てることに努めます。
 そのために、「ふるさとを知り・ふるさとを創る」活動を推進し、ふるさとに関わる学習、地域参加活動を通して、人間関係力の向上に努めます。

教育理念	基本施策と重点施策(第五次総合計画)	本年度に重点的に取り組む事業	本年度成果指標 【】内は本年度目標 ()内は第五次総合計画成果指標	合言葉
<p>明倫の心を重んじ 育てよう 大野人</p>	<p>心豊かな人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆特色ある学校づくり ◆生涯学習の推進 ◆地域を担う人材養成 ◆心豊かな青少年の育成 ◆国際感覚のある人づくり 	<p>○学校再編計画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年の小中学校学校再編計画を検証するとともに、よりよい学習環境の実現に向けて市民の理解を得ながら進める。 ○よりよい教育環境の整備 ・全小中学校の空調設備の設置に向けて、効率的効果的な方式を検討する。 ○幼保一体化に向けた取組 ・幼稚園、保育園の一体化に向け、関係者の理解を得るとともに条件整備に取り組む。 ○学校の教育力の向上 ・特色ある学校づくりを支援し、各校の創意工夫を生かした教育実践の充実を図る。 ・市全体研修会の開催や中学校区内研修、校内研修を支援し、教員一人一人の指導力の向上を図る。 ・幼稚園・保育園、小学校、中学校間の連携の充実を図る。 ・奥越地区特別支援学校(仮称)の平成25年度開校に向け、適切な就学指導への支援を図る。 ○ふるさとに関わる学習、地域参加活動の充実 ・小中学校で、ふるさとに関わる学習の充実を図る。 ・小学校4, 5, 6年生で、大野の先人の偉業を学ぶ道徳教育を実施する。 ・小学生による「ふるさと学習交流会」や、中学生による「みこし・ダンスパフォーマンス」を開催する。 ○キャリア教育の推進 ・1小学校、1中学校で保育体験を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査の平均正答率の向上 【全小中学校】 ○不登校児童生徒数の減少 【全小中学校】 ○「将来の夢や目標を持っている」児童生徒数割合の増加 【全小中学校】 ○ふるさとに関する学習 年間実施合計時間数 【小学校：250時間】(H27年度目標 250時間以上) 【中学校：80時間】(H27年度目標 80時間以上) 	<p>「行う人」も「観る人」も「支える人」もみんなが主役</p>
	<p>豊かな心を育てる育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆文化的遺産の保存と活用 ◆文化芸術の振興 	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統文化の継承・文化財の調査研究と普及啓発 ・市指定文化財「田村又左衛門家屋敷」の一般公開に向けた現況調査と設計業務を行う。 ・面谷鉱山跡地の試掘調査と歴史的価値について検証する。 ・大野市史通史編(上・下巻)の編集と、近代から現代までの歴史をまとめた「通史編下巻」を発刊する。 ○優れた文化芸術に触れ合う機会の提供と市民参加型事業の推進 ・市民団体が一般に広く公開する文化芸術活動に支援する。 ・市民が所有する美術工芸品などを掘り起こし、それらを活用した展示会を開催する。 ・オーケストラ演奏会や子どもを対象とした演劇を上演するなど、鑑賞の機会を提供する。 ○文化施設の適切な維持管理と展示内容の充実 ・博物館、本願清水イトヨの里、文化会館の適切な管理と来館者に親しまれる運営を行い、利用者の増加に努めるとともに、博物館についてはそのあり方について検討する。 ・文化会館の耐震化のあり方について検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市指定文化財件数 【112件】(H27年度目標 115件) ○市が支援する文化公演などの回数 【15回】(H27年度目標 16回) ○展示会への来場者数 【1,000人】 ○博物館来場者数 【43,000人】 ○イトヨの里の来場者数 【11,600人】 	
	<p>活カあふれる社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆生涯スポーツの推進 ◆競技力の向上 ◆スポーツ施設の整備と充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○スポーツに触れる機会の充実 ・「結ステーション」を拠点に、第48回越前大野名水マラソンを開催する。彩り運動への参加者やボランティアスタッフの増加を図り、多くの参加者に、より満足していただけるような大会運営等を行う。 ・スポーツ教室「みんなでスポーツ」について、公民館や民間スポーツ施設と連携し、市民がより取り組みやすいメニューの提供に努める。 ○競技スポーツの底辺拡大と競技者・指導者の育成支援 ・平成30年の福井国体に向けて推進体制を検討するとともに、体育協会などと連携しジュニア育成事業や指導者講習会の開催、次世代を担う競技者・指導者の育成、施設の適切な整備を行う。 ○学校やスポーツ団体との連携強化 ・体育協会、みんスポクラブなど関係機関と協力し、社会体育、学校体育、競技スポーツとの連携強化を図る。 ○B&G海洋センター事業の推進 ・子どもたちが水辺で遊ぶ楽しさや水の怖さを学ぶことを目的に、カヌーを使った水辺の安全教室を継続して開催する。市民がB&G施設をより安全に利用できるよう、適切な維持管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○名水マラソン参加者数 【4,000人】 ○みんなでスポーツ参加者数 【1,800人】(H27年度目標 2,100人) ○スポーツ施設利用者数 【250,000人】(H27年度目標 260,000人) ○スポーツ大会等での事故等発生件数 【0件】 	
<p>市長部局との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共に力を合わせるふるさとづくり ・男女共同参画社会の推進 ・人権尊重社会の実現 ○食育に関する事業 ○産業の人材育成 ○子育て事業 				

2 点検評価実施結果の概要

(1) 心豊かな人づくり

教育総務課

【重点施策】

- ◆ 特色ある学校づくり
- ◆ 生涯学習の推進
- ◆ 地域を担う人材養成
- ◆ 心豊かな青少年の育成
- ◆ 国際感覚のある人づくり



平成24年度に重点的に取り組む事業

- 学校再編計画の推進
- よりよい教育環境の整備
- 幼保一体化に向けた取組
- 学校の教育力の向上
- ふるさとに関わる学習、地域参加活動の充実
- キャリア教育の推進

〔主要事業の実施状況〕

① ふるさと文化創造事業

○中学生みこしダンスパフォーマンス

平成22年度から「おおの城まつり」において実施している事業で、平成24年度は、これまでの中学校1年生に加え、中学校3年生が参加して、内容の充実が図られました。大野の四季をイメージした春夏秋冬4基のみこしを、4色の法被をまとった市内5中学校の3年生全員で担ぎ、一方で、1年生全員が慣れ親しんだ大野音頭をヒップホップ調にアレンジした曲に合わせてダンスを披露しました。平成24年度の参加生徒数は655人、市民、観光客合わせた見物客は約6,000人でした。

このパフォーマンスに参加した生徒達は、競演や交流で盛り上がるだけでなく、互いの力を合わせることで仲間との一体感や達成感が生まれ、人間関係力の向上が図られました。また、こうした姿が、保護者だけでなく、集まった市民や観光客にも大きな感動と力を与えました。

○ふるさと学習交流会

平成23年度より、ふるさとを知り、ふるさとを誇りに思う心を育てるため、小学校3・4年生の児童が、校区や市に関する伝統文化、自然、産業、人々の活動などについて、総合的な学習の時間や社会科、理科の授業等で学習した成果を発表しました。平成23年度に6校、平成24年度には残り5校が発表を行いました。

○「大野の宝 先人に学ぶ」道徳読み物資料

平成22年度より、幕末の大野藩の財政を立て直した土井利忠公（4年生用）、

産業振興に尽力した尾崎琴洞氏(5年生用)、城下町の基盤を作った金森長近公(6年生用)の3人の先人を題材とした読み物冊子「大野の宝 先人に学ぶ」を各学年400冊作成し、全小学校において道徳資料として活用しました。

これらの3つの取組みから、第五次大野市総合計画で平成27年度に目標としている「ふるさとに関する学習」年間実施合計時間数(小学校は250時間、中学校は80時間以上)は、既に、全ての学校で達成しています。

② 適応指導教室事業

青少年教育センターに指導員2人を配置しています。年間3回程度、全小中学校を訪問し、気がかりな児童生徒に対して学校と情報交換を行い、個に応じた支援を行っています。また、保護者を含む教育相談活動も行っています。平成24年度の実績は、来所相談27件、電話相談62件、訪問相談28件です。

その他、学習相談員を配置して、通所する不登校児童生徒の学力不足の解消支援を行っています。(平成24年度通所児童生徒3名)

この適応指導教室は、問題を抱える児童生徒への自立支援を行うために必要な組織です。

③ 活力ある学校づくり推進事業

各学校において、特色ある学校づくりをするために教育手法の工夫などを行う教育活動へ支援を行っています。

内容は、各学校の教職員の資質向上のための教育講演会、若手教員研修、教科等別研修、授業力向上研修、自主研究サークルの育成及び「研究紀要」の編集などです。

さらに、五中学校区研究実践として、中学校区ごとに幼・小・中の教職員が、求められる教職員のあり方や「大野っ子」の育成に向けて、研修を深めています。

④ 特別支援教育推進事業(旧 特別支援教育支援員配置事業)

公立幼稚園と小中学校に在籍する発達障害等を持つ園児・児童・生徒が、円滑な学校生活を送ることができるように、学校に支援員を配置しています。

平成24年度は、特別支援学級在籍の特別支援学校判断相当児童生徒の支援を行う就学支援員を8名、発達障害等を持つ児童生徒の支援を行う特別支援教育支援員を16人配置しました。また、日本語の理解が困難な外国子女等に支援を行う外国人子女等支援員については、対象者がいなかったため、配置の必要はありませんでした。

⑤ 小中学校連合音楽会事業

市内小中学生が一同に会し、合唱や演奏を互いに披露し鑑賞する事業で、小学校は10月17日に、中学生は9月27日にそれぞれ開催しました。

小学校は6年生が中心となって、中学校は3年生が中心となり、全小中学校、合計約600人の児童生徒が参加し、お互いに大きな感動を分かち合いました。

事業は、学校教職員で構成する実行委員会に委託しており、主な経費は、児童生徒の送迎に係るバス借上げ料です。

⑥ 学校生活サポート推進事業

学習指導要領の改訂により、小学校では社会や、自然や環境の中での直接体験活動の充実が図られています。小学校の体験活動や学校生活を支援するため、地域ボランティアを全学年対象に導入することにより、地域の力を生かした教育体制の一層の充実を図り、子ども達が地域へ出て活動するきっかけづくりとします。

主な経費は、ボランティアの飲物及び保険料です。平成24年度のボランティア登録者数（活用実績）は、10校、356人でした。

〔成果指標の達成状況〕

成果指標	H24目標	H24実績	H27目標
全国学力・学習状況調査の平均正答率の向上	全小中学校	全小中学校 において達成	—
不登校児童生徒数の減少	全小中学校	全小中学校 において達成	—
「将来の夢や目標を持っている」児童生徒数割合の増加	全小中学校	全小中学校 において達成	—
「ふるさとに関する学習」年間実施合計時間数	小学校 250 時間以上 中学校 80 時間以上	小学校 250 時間以上 中学校 80 時間以上	小学校 250 時間以上 中学校 80 時間以上

〔課題と今後の方向性〕

① ふるさと文化創造事業

「中学生みこしダンスパフォーマンス」の課題としては、六間通りの改修工事により、会場の一部が使用できなくなることで運営面や生徒の安全面などの対応が必要となります。

また、今後、生徒数の減少による参加体制の見直しなどの課題もありますが、中学校みこし部会、部内担当者会、城まつり実行委員会などで検討を行い、円滑な運営に努めていきます。

そして、市職員や青年団体の協力により、多くの世代が交流するこの新たなふるさと文化が「創造」から「定着」そして「充実」、へと着実に進歩するよう支援します。

② 適応指導教室事業

問題を抱える児童生徒への自立支援を行う組織です。不登校問題などに対処しており、対象児童生徒及び保護者のよりどころになっています。

しかし、中には関わりを望まない児童生徒もいることから、一人一人の児童生徒の状況に応じて支援を続けていくことが重要です。

③ 活力ある学校づくり推進事業

これまで着実に事業を実施しており、教員の資質向上に寄与してきましたが、近年、内容がマンネリ化する傾向にあります。

今後は、教育理念の具現化、特色ある学校づくりに向けて、従来の教育手法に加えて新たな取り組み（ICT 機器の活用、デジタル教材の活用など）を進めていく必要があります。

④ 特別支援教育支援事業（旧特別支援教育支援員配置事業）

平成25年4月、勝山市に奥越特別支援学校が開校しましたが、市内小中学校への通学を希望する認定就学者のために、引き続き就学支援員は必要です。

また、発達障害を持つ児童生徒など支援を必要とする児童生徒数が増加しており、各校の実情に応じて、支援員の配置を行っていきます。

⑤ 小中学校連合音楽会事業

将来的には、児童生徒数の減少から開催の見直しが必要となることが予想されますが、児童生徒の情操教育、音楽教育として効果的な事業であることから、教職員による実行委員会で内容面の検討、協議を行い、事業を継続していきます。

⑥ 学校生活サポート推進事業

地域でボランティアとして協力できる人員には限りがあり、学校が必要としている場面や時間で必要人員を確保できないことが課題となっています。

地域と連携した学校運営を進める点で、本事業は必要性が高く継続が必要であることから、事業を周知し、ボランティアの確保に努めていきます。

平成24年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計 特別会計 企業会計

事業名 ふるさと文化創造事業 実施される事業費 所属 部(局) 教育委員会 課(室) 教育総務課 係

総合計画 人が元氣 産業が元氣 自然が元氣 行財政改革 事業区分 国・県 実行予算 22年度 経過年数 2年 糸子定存 年度 事務区分 自治事務 法定受託事務 その他

関連計画 心豊かな人づくり

対象 市内小中学校児童生徒 意図 教育理念の具現化とふるさと文化の創造。

事業内容 小学生による「ふるさと学習交流会」や中学生による「みこしダンスパフォーマンス」などを通して、ふるさと意識の高揚を図る。

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均伸び率	行政改革推進プラン
当初予算額	1,139	1,124	590	590	-30.6%	状況・環境の変化
3月現計予算額	1,139	1,124	590		#DIV/0!	
決算額(執行済額)	1,098	819	530	0	#DIV/0!	年々、ふるさと意識が薄らいできている。
財源内訳						事業開始後の見直し状況
国庫・県支出金						
県支出金						
地方債						
その他特定財源						
一般財源	1,098	819	530			「みこしダンスパフォーマンス」について、参加体制・日程を見直した。
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方・積算根拠等
その他特定財源名称						
活動指標	全生徒数	1,041	992	970	#DIV/0!	活動指標：全生徒数(中学生)を設定
単位：人					#DIV/0!	
成果指標	参加生徒数	500	320	655	#DIV/0!	成果指標：「みこしダンスパフォーマンス」事業に参加した生徒数を成果とする。
単位：人					#DIV/0!	

公共関与の必要性 ふるさと意識の高揚を図る上で公共関与は必要不可欠である。

有効性 市民等のニーズとの一致 子どもたちにふるさとへの愛着心を持ってほしいという思いは、大野市民全体の願いである。

目的達成状況 予定どおり実施された。大野市教育理念の具現化のため「ふるさとを知り、ふるさとを創る」教育活動を実施し、児童生徒のふるさと意識の高揚を図った。中学生みこしダンスパフォーマンスの実施、小学生は郷土学習の成果を発表しあうふるさと学習交流会の実施、先人の資料による道徳学習を実施。

事業内容、手法、統合の検討 現行の学習内容との兼ね合いによりこれ以上の拡大は困難。現在の事業の中身の充実を図っていく。

効果性 事業費削減の検討 事業費はできるだけ効率的な運用を心がけ削減に努めてきた。今後、大きな削減の余地はない。

民間委託(公設民営を含む)・市民協働の可能性 実施主体が児童生徒であり、学校活動の一環である部分が多い。現行でもできるところ(みこしダンスパフォーマンス等)では市職員、青年団体等の協力の下に実施している。

総合評価 現状分析及び残された課題 教育現場である学校の負担が大きい。

中間評価 実施状況 みこしダンスパフォーマンスを約6,000人が見物した。

事業評価 新しい若者文化の創造やふるさと意識の高揚、賑わいの創造という面では高く評価できるが、事業運営面で学校の負担は大きい。

改善方針 開催日の変更を含め、学校の要望を取り入れる。

方向性 現状維持 整理統合 拡充 廃止 縮減 休止 終期見直し 完了

事業の評価 二次評価 評価 評価 A

事業の評価 二次評価 評価 A

改善方針 学校(生徒)の負担軽減および学校と運営側との連絡調整の強化

見直し額 352 千円

方向性 現状維持 整理統合 拡充 廃止 縮減 休止 終期見直し 完了

事業の評価 二次評価 評価 A

事業の評価 二次評価 評価 A

改善方針 児童・生徒が「ふるさと」に愛着を持ち、積極的にふるさと行事に参加しようとする姿勢が見られるようになり、特に、ダンスパフォーマンスは、多少の問題行動がある生徒が、教師や他の生徒と一体的に力をあわせ、イベントに関わろうとする姿は、結の精神にふさわしい成果となっている。

見直し額 75 千円

方向性 現状維持 整理統合 拡充 廃止 縮減 休止 終期見直し 完了

平成24年度事務事業評価シート

会計区分: 一般会計, 特別会計, 企業会計

事業名: 適応指導教室推進事業
実施年度: 2012年度
実施期間: 1
実施場所: 教育委員会 教育総務課

事業目的: 市内全児童生徒 不登校児童生徒の早期学校復帰と不登校の未然防止。

事業内容: 適応指導教室指導員が下記の事業を行う。
・相談援助活動
・巡回相談
・ケース会議参加

Table with columns for fiscal years (22年度 to 27年度) and rows for budget items (当初予算額, 3月現計予算額, 決算額, etc.) and activity indicators (年間指導日数, 受け入れ生徒数).

Public interest necessity, effectiveness, efficiency, and overall evaluation sections. Includes text like '県から事業委託も受けており、問題を抱える児童生徒への自立支援を行う機関としても必要である。'

Intermediate evaluation section. Description: '不登校児童生徒の学習支援・相談活動に対応している。' Evaluation: '現状維持'.

Secondary evaluation section. Description: '利用実人数は減ってきているが、不登校児童・生徒への支援として大変大きな役割を果たしている。' Evaluation: '現状維持'. Improvement plan: '更に積極的に働きかけ、不登校児童・生徒の支援をしていく必要がある。' Score: A, Budget: -8千円.

Secondary evaluation section. Description: '不登校児童生徒が減少していることから、指導員の地道な活動が評価できる。' Evaluation: '現状維持'. Score: A, Budget: -6千円.

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	活力ある学校づくり推進事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	教育総務課			
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金	事業開始年度	年度	年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	心豊かな人づくり										

対象	市内在	市外	
事業目的	市内全小中学校	活力ある学校づくりを支援し、児童生徒の生きる力を育成する。	

事業内容	活力ある学校づくりのために下記の事業を行う。 1. 特色ある学校づくり (特色ある教育活動への予算支援) 2. 魅力ある教師育成事業 3. 五中学校区研究実践	
------	--	--

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	増減率	行政改革推進プラン	
当初予算額	4,424	4,472	4,455	4,401	-0.1%	状況：環境の変化	
3月現計予算額	4,424	4,472	4,455		#DIV/0!	国・県ではさまざまな教育改革を打ち出しているが、それは信頼される学校づくりを進めるためのものである。そのためにも、今後も教職員の資質向上のための施策や特色ある学校づくりを進めていく必要に迫られる。	
決算額(執行済額)	3,163	3,193	3,543	0	#DIV/0!		
国庫支出金							事業開始後の見直し状況
県支出金							
地方債							
その他特定財源							
一般財源	3,163	3,193	3,543			教員の資質向上に向けてワーキンググループ結成と提案を行う推進委員会を立ち上げた。	
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方、積算根拠等	
その他特定財源名称							
活動指標	自主研究育成サークルの募集数	10	10	10	#DIV/0!	活動指標：教員の資質向上事業である自主研究育成サークルの募集数	
成果指標	実際の応募数	12	11	5	#DIV/0!	成果指標：実際の応募数	
	単位：件				#DIV/0!		
	単位：件				#DIV/0!		

公共関与の必要性	公立小中学校の充実、行政の責務である。	
有効性	市民等のニーズへの対応	市民は、地域や保護者の教育ニーズを各学校がどのようにとらえ、各校の特色としてどのように学校経営に反映させているか注目している。また学校も特色ある学校づくりや教員の資質向上等について自己評価するために地域や保護者の声を参考資料としている。
	目的達成状況	予定された事業はほぼ実施できた。
効果性	事業内容、手法、統合の検討	今後特色ある学校づくりへの期待はますます高まることから、事業の拡大が望まれる。
	事業費削減の検討	内容について、精査してきているが大きな削減は困難である。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	教職員が教育力を高めるための活動であり、民間委託にそぐわない。
総合評価	現状分析及び残された課題	教育理念の具現化に向けた取り組みの充実。内容の精査。

中間評価	実施状況	自主研究サークルの数は少ないが、研修や講演会、学校づくりは効果的に進められている。	事業評価	各事業内容は充実しており、教員の資質向上に寄与している。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針	今後、事業内での予算配分の変更を行う。				

一次評価	事業の評価	専門家の指導助言を受けることにより、校内研修が充実した。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了		
	改善方針	若手教員研修の研修内容の見直しを図る。	観点	B	見直し額	107 千円

二次評価	事業の評価	事業を着実に実行しているが、内容がマンネリ化の傾向にある。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了		
	改善方針	新たな工夫と取り組みを自主サークル等に求める。	観点	B	見直し額	-54 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分: 一般会計, 特別会計, 企業会計

事業名: 特別支援教育支援事業, 含まれる事業数: 1, 所属: 教育委員会, 係: 教育総務課, 指導係: 指導係

総合計画: 人が元気, 産業が元気, 自然が元気, 行財政改革, [心豊かなひとづくり]

事業目的: 市内幼稚園・小中学校, 特別な支援を必要とする児童生徒が在籍する学校に対し、支援を講じる。

事業内容: 特別な支援を必要とする児童生徒やその周囲の児童生徒が、円滑な学校生活を送ることが出来るように昨年度末に申請のあった市内幼稚園、小中学校に対し支援員を配置し、教育活動が円滑に行われるよう支援する。

Table with columns for fiscal years (22年度 to 27年度), budget items (当初予算, 3月現計, 決算), and activity indicators (支援員の配置校数, 支援時間数).

公共関与の必要性: 民間に同様のサービスを提供できる機関がないことから、教育上必要な支援を行うことは行政の責務である。

市民等のニーズとの一致: 教育上特別の支援を必要とする児童生徒にはそれ相応の支援が必要であることや、教育の機会均等の基本原理から配置は適切である。

目的達成状況: 予定通り配置を必要とする学校に支援員を配置し、必要な支援を実施できている。

事業内容、手法、統合の検討: 平成25年度奥越特別支援学校開校に伴い、就学支援員削減が見込まれるが、通常学級における気がかりな児童生徒は増加傾向にあるため、全体としては現状維持または微減となる見込みである。

事業費削減の検討: 平成24年度就学支援員配置事業、特別支援教育支援員配置事業、国際理解教育推進事業（外国人子女支援）との統廃合をすることで柔軟な対応を可とし、事業効率を上げる。

民間委託（公設民営を含む）、市民協働の可能性: 学校活動の一環として実施するもので、民間委託にそぐわない事業である。

現状分析及び残された課題: 予定通り必要な学校に支援員を配置し、事業が実施された。

Handwritten notes: 30478-29544, 30478-29544

中間評価: 実施状況: 予定通り必要な学校に支援員を配置し、事業が実施された。 適切である。

一次評価: 事業の評価: 予定通り必要な学校に支援員を配置し、事業が実施された。 支援員連絡会を実施し、情報交換の場を設定した。 改善方針: 平成25年度奥越特別支援学校開校に伴い、就学支援員削減が見込まれるが、通常学級における気がかりな児童生徒は増加傾向にあるため、全体としては現状維持または微減となる。 評価点: A

二次評価: 事業の評価: 発達障害などを抱える児童生徒などが増えつつある中、事業効果を見極めるには実績（支援時間数）だけでは、図りにくく評価しにくい面があるが、この配置における保護者からのクレーム等は皆無であった。 改善方針: 評価点: A

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	小中学校連合音楽会事業	含まれる事業数	1	所属	部(局) 教育委員会 課(室) 教育総務課	係	指導係	
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 [心豊かなひとづくり]	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	<input type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	年度 経過年数 年度 終了年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他

対象	原則として市内小学校6年生・中学校3年生	趣旨	児童生徒の情操を豊かにし、他校との友情を培う。
事業目的	原則として市内小学校6年生・中学校3年生がそれぞれ一堂に会し、合唱や合奏・鑑賞を行う。		

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均値の率	行政改革推進プラン	
当初予算額	500	500	500	500	0.0%	状況・環境の変化	
3月現計予算額	500	500	500	#DIV/0!			
決算額(執行済額)	493	476	495	0	#DIV/0!	半世紀以上続いている音楽会であり、学校におけるその意義は十分に高い。	
財源内訳						事業開始後の見直し状況	
国庫支出金							
県支出金							
地方債							
その他特定財源							
一般財源	493	476	495			これまで経費の削減を図ってきており、現状ではこれ以上は削減の余地はない。	
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方・積算根拠等	
その他特定財源名称							
活動指標	委託料金額(単位:千円)	493	476	500	500	0.4%	活動指標:委託料金額
						#DIV/0!	
成果指標	参加小中学校数(単位:校)	16	16	16	15	-2.2%	成果指標:参加小中学校数
						#DIV/0!	

公共関与の必要性	義務教育における情操教育・音楽教育の一環として公共関与の必要性がある。
有効性	市民等のニーズとの一致 学校現場のニーズは高いと認識する。ただ、会場の都合上、また会の進行上、保護者の鑑賞ができないのが課題ではある。 目的達成状況 各年ごとに、成果のある音楽会として完結している。
効率性	事業内容・手法、統合の検討 将来的には、児童生徒数の減少などによる若干の見直しは必要かと考えるが、当面は現状維持。 事業費削減の検討 これまで経費の削減を図ってきており、現状ではこれ以上は削減の余地はない。
民間委託(公設民営を含む)・市民協働の可能性	学校教育活動の一環であり、民間委託や市民協働にはなじまない。
総合評価	現状分析及び残された課題 将来的には、児童生徒数の減少などによる若干の見直しは必要。

中間評価	9月に中学校、10月に小学校が実施予定	事業評価	音楽会に向け、各校児童生徒が懸命に取り組んでいる。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
		改善方針	将来的には、児童生徒数の減少などによる若干の見直しは必要かと考えるが、当面は現状維持。	評価	A

一次評価	音楽会に向け、各校児童生徒が懸命に取り組んでいる。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方針	将来的には、児童生徒数の減少などによる若干の見直しは必要かと考えるが、当面は現状維持。	評価	A
		見直し額	0 千円

一次評価	この事業は、音楽の振興に果たす役割は大きいと感じるが、課題等を踏まえると、水準並みの評価である。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方針	効果的な運営と保護者との連携など、改善を指導する。	評価	B
		見直し額	0 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計 特別会計 企業会計

事業名 学校生活サポート推進事業 含まれる事業数 1 所属 部(局) 教育委員会 課(室) 教育総務課 係 指導係

総合計画 人が元氣 産業が元氣 自然が元氣 行財政改革

事業区分 国・県 実行予算 年度 終了年度 事務区分 自治事務 法定受託事務 その他 補助金 その他

関連計画

対象 市内全小学校 意図 基本的な生活習慣が身につけていない児童や、授業中落着きがない児童が増えてきているため、ボランティアを導入し、きめ細やかな教育体制の充実を図る。

事業内容 基本的な生活習慣が身につけていない児童や、授業中落着きがない児童を支援するためにボランティアの導入。(ボランティア保険の加入・必要経費の支出)

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均値の算出	
当初予算額	560	454	270	270	-30.4%	行政改革推進プラン
3月現計予算額	560	454	270		#DIV/0!	状況・環境の変化
決算額(執行済額)	411	308	115	0	#DIV/0!	学校に寄せられる期待・課題が増加する一方において、当事業の対象者が増えており、保護者及び地域の方々に多大なるご協力をいただいている。
財源内訳						事業開始後の見直し状況
国庫支出金						平成23年度までは小学校低学年で2人以上の児童を有する学級を対象とし、県補助内容は保険料および消耗品費であった。平成24年度より全小校、全学年を対象となったが、県補助は保険料のみとなり、市単でボランティアに対する飲料水支給(食糧費)の経費を計上した。
県支出金	411	308	99			指標設定の考え方、積算根拠等
地方債						
その他特定財源						
一般財源			18			
国庫 県支出金名称	学校生活サポート推進事業補助金					
その他特定財源名称						
活動指標	事業実施校(単位:校)	5	5	10	#DIV/0!	活動指標:事業の対象になっている学校数を活動指標とした。
成果指標	ボランティア登録(単位:人)	239	197	356	#DIV/0!	成果指標:事業の拡充の目安としてボランティアの登録人数を成果指標とした。

公共関与の必要性	地域と連携した学校運営のモデル的取り組みとして、必要性は非常に高い。
有効性	市民等のニーズとの一致 きめ細かい教育体制の充実、教育現場から強い要望がある。
	目的達成状況 計画通り事業が実施できた。
効果性	事業内容・手法統合の検討 対象児童は拡大するが、県の補助内容変更により、補助対象経費は縮小される。
	事業費削減の検討 ボランティア保険等必要な経費であり、事業費削減の余地はない。
	民間委託(公設民営を含む)・市民協働の可能性 事業自体が民間の協力のもとに実施されるものであり、実質的に民間協働といえる。
総合評価	現状分析及び残された課題 ボランティアで協力できる人員に限りがあり、人材確保の面で課題が残る。

中間評価	実施状況 各校においてボランティアを導入し実施している。	事業評価 ボランティアで協力できる人員に限りがあり、人材確保の面で課題が残る。	改善方策 県事業が継続されれば、早期に各校に周知することで、内容の充実を図る。	方向性 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 後見見直し <input type="checkbox"/> 完了
------	---------------------------------	--	--	---

事業の評価	ボランティアで協力できる人員に限りがあり、人材確保の面で課題が残る。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 後見見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方策	県事業が継続されれば、早期に各校に周知することで、内容の充実を図る。	見直し額 0 千円

事業の評価	ボランティアの活用という点で、経費節減の効果は高い。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 後見見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方策		見直し額 0 千円

【重点施策】（再掲）

- ◆ 特色ある学校づくり
- ◆ 生涯学習の推進
- ◆ 地域を担う人材養成
- ◆ 心豊かな青少年の育成
- ◆ 国際感覚のある人づくり



平成24年度に重点的に取り組む事業

- 生涯学習の推進
- 地域を担う人材養成
- 国際感覚のある人づくり

〔主要事業の実施状況〕

① 生涯学習推進事業

生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、学習の機会を提供し、生涯学習社会の機運を高めるため、市民学校を12回、めいりん講座を24回開催しました。

生涯学習フォーラムでは、「学びの舞台としての越前おおの」と題したパネルディスカッションを行い、学習意欲の向上を図りました。

また、学習情報誌として「生涯学習ガイドブック」を1,000部、関係機関や市民に配布し啓発を行いました。

さらに、生涯学習グループへの活動支援として、2グループに補助金を交付し団体の育成を図りました。

② 生涯学習人材活用事業

生涯学習の指導者として登録した62人を、団体やグループの学習活動、お出かけほっとサロンの講師として派遣しています。

平成24年度の派遣回数は、238回で受講者は延べ6,171人でした。このほか、登録者は、めいりん講座においても16講座で講師を務めました。

③ 青年活動推進事業

「大野青年連絡会」と「灯そう会」に事業を委託し、自主イベントの開催や各種イベントへの積極的な参加など、地域の活性化、青年活動の活性化を図りました。

イベントの一つである若者交流事業「ろくろし友縁地」では、54人の参加者のうち3人が大野青年連絡会の新規会員になるなど、青年組織の拡大に向けての成果も出ています。

④ 放課後子ども教室事業

学校の空き教室、公民館等を活用して、上庄・小山・阪谷・乾側・富田の5小学校区で実施しました。登録児童数は173人で、地域住民による実行委員会(事務局；公民館)が主体となり、それぞれ特色ある教室運営を行いました。

その成果が認められ、平成20年度の上庄、平成23年度の小山に続いて阪谷放課後子ども教室が、「平成24年度優れた地域による学校支援活動推進にかかる文部科学大臣表彰」を受賞しました。

⑤ ふるさと大野今昔物語事業

この事業は、時代とともに失われつつある郷土の歴史、伝統、文化等が記録された写真等を収集、保存し、郷土学習等に活用しようと、平成24年度から3年計画で始めました。

初年度である平成24年度は、過疎化などで資料の散逸が懸念されている和泉、五箇、西谷の3地区の収集を重点的に行い、2,036枚の貴重な写真等を収集することができました。

また、これらの写真等を生涯学習フォーラムなど各種イベントで展示し、収集した写真等の活用と事業の広報に努めました。

⑥ 地域・人づくり学習事業

各公民館では、子どもから高齢者まで気軽に集い、学ぶ機会を増やすとともに、特色ある講座・学級の開催や地域課題等への取組みを通して、市民力・地域力の向上を図っています。平成24年度は、全公民館で83事業、890講座を開催し、17,196人の参加がありました。

なお、この事業は、公民館ごとに1事業となっていますが、この「点検・評価報告書」では、全公民館事業を合わせて1つの評価対象事業とし、9公民館の評価シートを合わせて作成しています。

⑦ 子どもの読書活動推進事業

読書を通して乳幼児期の親子の関わりを深めるブックスタート事業では、年間2回、合計176組の親子に絵本の読み聞かせを行い、家庭での実践を呼びかけました。

また、子どもの読書の大切さを訴える講演会を開催し、幼児をもつ母親など約150人の参加がありました。

〔成果指標の達成状況〕

成果指標	H24目標	H24実績	H27目標
めいりん講座開催数	24講座	24講座	—
図書館貸出冊数	137,000冊	134,934冊	140,000冊
図書館利用者数	4,500人	4,043人	—
公民館講座・教室受講者数	17,100人	17,196人	17,500人
青年交流参加者人数	70人	54人	—
国際交流講座	5回	6回	—

〔課題と今後の方向性〕

① 生涯学習推進事業

平成24年度の講座開催目標数は達成されていますが、課題として、参加者が固定化している傾向が見受けられます。多くの市民の参加が得られ、かつ、効果的に学習できるよう講座内容や、広報の手法などについて改善していきます。

② 生涯学習人材活用事業

団体等から派遣要望される講師の指名に偏りがみられることから、今後、登録指導者研修会の内容を充実させ、指導者の資質向上を図ります。

更に、市民の要望に応えるために、幅広く、特に若年層から指導者を発掘すると共に、学習メニューの充実に努めていきます。

また、登録者派遣回数については、回数増の要望もありますが、現状の1団体2回以内を維持していきます。

③ 青年活動推進事業

青年活動を活発化するためには、新たな人材の確保が重要であり、若い人材にどのように啓発していくかが課題となっています。

そのためには、活動参加のきっかけづくりとなる仕掛けを行うことが必要であり、平成24年度の青年交流参加者人数は、目標値を下回っていることから「ろくろし友縁地」のような事業を継続していく必要があります。

また、既存組織の充実や他の青年団体との交流やネットワーク化にも取り組んでいきます。

④ 放課後子ども教室事業

放課後を一人で過ごす児童には安心して安全な居場所の確保だけでなく、より充実した支援内容が求められています。

そのために、安全管理員のキャリア別の研修などを継続することや、各教室間の情報交換を行い資質の向上を図るなど、よりよい環境づくりに努めていきます。

また、各地域のふるさと文化の継承活動など地域の特性に応じた内容を取り入れることも検討しています。

⑤ ふるさと大野今昔物語事業

収集・保存・整理した写真を高齢者サロンや福祉施設での展示、学校での郷土学習資料や市制60周年事業での展示など、結の人づくりや交流人口の増加による中心市街地の活性化につながるよう積極的な活用を図っていきます。

⑥ 地域・人づくり学習事業

公民館で開催する講座では、趣味的な講座への参加者は多く、学習や発表を求められるような講座への参加は少ない傾向にあります。

また、講座全般に受講者の固定化がみられます。地域課題を分析し、住民のニーズにあった興味のもてるテーマを設定していく必要があります。

⑦ 子どもの読書活動推進事業

本年度からポリオワクチン接種を保健センターで行わなくなったことから、同時開催していたブックスタート事業の実施会場を図書館に変更しました。

図書館で開催することによって参加率が10%程度下がったものの、一方で絵本への関心が高まり、絵本の貸し出しや図書館の利用につながる成果が生まれました。

今後は、事前に事業を知ってもらうために、母親の妊娠期や出産時期に合わせてチラシを配布するなど、きめ細やかな事業の周知を図っていきます。

また、図書館の貸出冊数、図書館利用者数について、平成24年度実績は目標値を下回りました。図書館の貸出冊数については、第五次大野市総合計画の平成27年度目標値の140,000冊を達成するよう、利用者の増とあわせて取り組んでいきます。

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計
	<input type="checkbox"/> 特別会計
	<input type="checkbox"/> 企業会計

事業名	生涯学習推進事業	含まれる事業数	7	所属	部(局) 育委員会事務課(室)	社会教育課	係	社会教育係			
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他	実行予算	<input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	年度	32年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	心豊かな人づくり			事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独	開始年度	経過年数	終了年度	32年度		

対象	一般市民	意図	生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、学習の情報並びに機会を提供し、生涯学習社会の機運を高める。
----	------	----	---

事業目的	生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、市民の必要に応じていつでもどこでも自由に学習できるように、学習機会の提供、学習情報の提供、学習相談の実施などを行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進会議の開催 4回開催 生涯学習フォーラムの開催 1回開催(3/3) 市民学校の開催 1回開催 めいりん講座の開催 2回開催 集落学習推進事業の実施 生涯学習グループ活動支援補助 わく湧くお届け講座の実施

	22年度(実績)	23年度(実績)	24年度(実績)	27年度(目標)	平均値(目標)	行政改革推進プラン
当初予算額	1,074	1,141	962	1,200	2.3%	状況・環境の変化
3月期予算額	1,074	1,141	962	1,200	2.3%	
決算額(執行済額)	791	879	705	1,200	8.8%	科学技術の進歩や社会構造の変化、高齢化の進展や自由時間の増大などに伴って「教育基本法」の中で、「生涯学習の理念」について新たに規定され、市民に対し、重要性を広く知らしめる必要がでてきた。
国庫支出金						事業開始後の見直し状況
県支支出金						
地方債						
その他特定財源						
歳入	791	879	705	1,200		

活動指標	22年度	23年度	24年度	27年度	平均値	指標設定の考え方、算根根拠等
市民学校の開催回数	15	12	12	12	-8.3%	学習情報ならびに機会提供の1つである
めいりん講座の開催回数		22	24	36	47.2%	学習情報ならびに機会提供の1つである
市民学校の参加者数	918	600	736	800	-8.8%	
めいりん講座の参加者数		440	313	600	35.7%	

公共関与の必要性	「生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律」により市の関与が義務付けられている。
市民へのニーズとの一致	市民学校の各テーマに対し、興味を持った人や意欲のある人が聴講している。また、平成23年度から、主に市民が講師を務めるめいりん講座を開催することにより様々な内容の体験型講座も開催し、受講生も徐々に増えてきている。受講者にアンケートを行い、意見を取り入れて市民のニーズに 대응している。
目的達成状況	予定していた事業については、ほぼ予定通り実施見込み、市民それぞれの「学び」の意欲に対し、答えることができた。
事業内容、手法、統合の検討	市民の様々な学習意欲に対応するための事業なので、縮小は不可能である。類似事業との統合は難しいが、共催等を検討する必要がある。
事業費削減の検討	他の課の生涯学習に関する事業や公民館、社会教育団体の研修・啓発事業と共催し、コスト削減に取り組む必要がある。しかし、謝礼金については、優秀な講師の確保や参加者確保の観点からコスト削減はできない。
民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性	講師を市民や団体に依頼することや開催の方法を検討することにより、市民協働の可能性もある。
総合評価	生涯学習の重要性を広く啓発するとともに、学習の情報並びに機会を提供し、生涯学習社会の機運を高めるために効果的で必要な事業であるが、生涯学習フォーラムや市民学校・めいりん講座の参加者数は、多いとはいえない。提供する情報についても、より内容を充実させ、ライフステージに応じた最適な学習情報の提供方法を研究していく必要がある。

中間評価	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習推進会議の開催 1回開催 生涯学習グループ活動支援補助 2団体 市民学校の開催 4回開催 めいりん講座の開催 1回開催 わく湧くお届け講座の実施 随時 	事業評価 おおむね予定通りに実施できている	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
------	---	--------------------------	---

事業の評価	H23年度から取り組んでいる「めいりんて学ぶ日」の「めいりん講座」は24講座、市民学校は12回開催するなど多くの市民の学習活動に寄与することができた。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方策	多くの市民の参加が得られかつ効果的に学習できるような研修手法、参加者獲得方法などについて改良を試みていく。また、めいりん講座について、開催数を30講座に拡充する。	評点	A
見直し額	345	千円	

二次評価	参加者数は増えていないが、平日の開催要望が多いことから、より専門的な内容で継続を要望する市民ニーズになりつつあると考えられる。事業の趣旨は市民から理解されているが、参加者数の伸び悩みがネックである。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方策	成果指標の増加	評点	B
見直し額	251	千円	

平成24年度事務事業評価シート

事業名 生涯学習人材活用事業 含まれる事業数 1 所属 部(局) 教育委員会 課(室) 社会教育課 係 社会教育係

総合計画 ■ 人が元気 □ 産業が元気 □ 自然が元気 □ 行財政改革 事業区分 □ 国・県 ■ 実行予算 □ 補助金 □ その他 ■ 市単独 □ その他

事業目的 対策 市民(幼児～高齢者) 意図 生涯学習の振興及び充実を図るため、いろいろな知識及び技能を持ち、社会参加に熱意のある有能な人材を生涯学習の指導者として登録し、市民の求めに応じて派遣する。

事業内容 ・生涯学習人材活用登録指導者の派遣 ・生涯学習人材活用登録指導者の研修(指導者研修会・県外視察研修) ・生涯学習人材活用事業促進会議の開催(年3回) ・指導者が「めいりん講座」の講師として活動(自己研修の成果) (H24年度生涯学習人材活用登録者数 62名)

行政改革推進プラン 当初予算額 1,154 23年度(実績) 1,213 24年度(実績) 1,213 27年度(目標) 1,213 1.6% 3月現計予算額 1,154 1,213 1,213 1,213 1.6% 決算額(執行済額) 1,067 1,142 1,133 1,213 4.1%

公共関与の必要性 教育基本法の中で生涯学習の理念が新設されたことを受けて、市は国の施策に準じたその地方の区域特性に応じた施策を策定し、実施する責務を有するため、公共関与は必要である。

中間評価 近年、若年層の登録指導者も増加し、それに伴い幅広い団体からの申請がある。

事業の評価 高年齢など一般の団体だけでなく、乳幼児を含めた子ども対象の申請も多くあり、市民に幅広く利用してもらえた。

事業の評価 成果指標から着実に参加者数が推移しており、「市民による市民のための事業」として、定着している。

平成24年度事務事業評価シート

会計区分: 一般会計 特別会計 企業会計

事業名: 青年活動推進事業 含まれる事業数: 2 所属: 部(局) 教育委員会 課(室) 社会教育課 係: 青少年女性係

総合計画: 人が元氣 産業が元氣 自然が元氣 行財政改革 事業区分: 国・県 実行予算 補助金 その他 市単独 その他

事業目的: 市内青年層及び青年サークル 地域に根ざした青年組織の活性化を図るとともに、組織での活動を通じて将来的に各地区で活躍できる人材の育成を図る。

事業内容: 「大野青年連絡会」及び「灯そう会」に事業の企画、運営を委託し、青年活動の活性化を図る。活動をととして、郷土を思う気持ちや青年団体同士の交流が生まれることで、大野市全体の青年活動の活性化に資する。

Table with columns for years (22, 23, 24, 27) and budget types (国庫支出金, 県支出金, 地方債, 一般会計). Includes a note about budget changes and activity trends.

Table with columns for activity metrics (主催・参加事業回数, 事業参加人数) and their percentage changes over time.

公共関与の必要性: 社会教育法に基づき市教育委員会にて行うこととされている事業である。

有効性: 市民等のニーズの一致 青年活動の活性化は大野に元気を与える意味でも広く市民から求められていることであり、活動を続けていくことが活性化につながると思われる。

目的達成状況: 現時点でそれぞれの団体において実施した事業、または参加・協力した事業については、ほぼ成果を得られるものであった。

事業内容、手法統合の検討: 既存組織の規模拡大、新たな人材・組織の発見・育成のために事業規模の拡大が必要である。

効果性: 事業費削減の検討: 青年活動を活発化させるためにも、既存組織の活動拡大による新たな人材の確保が重要であるため、事業費の削減は困難である。

民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性: 本事業は青年活動を行う団体を対象とした事業であるため、民間委託はできない。また、2団体が実施している事業の内容は、行政が目的とする青年組織の活性化と合致しており、行政が実施する場合に比べても効果が大きいことから市民協働はすでに達成されていると考えられる。

総合評価: 現状分析及び残された課題: 青年活動の活性化には、活動に参加する人の増加が欠かせない。そういった人材をどのように発見し、増やしていくかが今後の課題である。

中間評価: 各団体での事業については委託内容に沿って計画どおり進められている。

事業の評価: 各団体での事業については委託内容に沿って計画どおり、また、事業内容企画や他青年団体との交流の面においては各団体積極的な取り組みが見られた。

改善方策: それぞれの青年団体の限られた人数・時間の中で、個人に大きな負担をかけて自主的な活動を消してしまわないようにサポート・フォロー等を行う。

一次評価: 評価: A 見直し額: 0 千円

事業の評価: 着実に成果指標が伸びており、担当者の意欲が伺える。青年層の活動は地道な努力と継続性が評価されるがここ5年程度、積極的な活動は評価できる。

改善方策: 評価: A 見直し額: 0 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分
 一般会計
 特別会計
 企業会計

事業名 放課後子ども教室事業 含まれる事業数 1 所属 部(局) 教育委員会 課(室) 社会教育課 係 青少年女性係
 総合計画 人が元氣 産業が元氣 自然が元氣 行財政改革
 事業区分 国・県 実行予算 19年度 経過年数 32年度 自治事務
 その他 補助金 6年 終了年度 法定受託事務
 市単独 その他

事業目的 対象 意図
 対象校区の小学生 放課後における子どもの安全な居場所を確保し、勉強やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等、子どもが充実して過ごせる取り組みの充実。地域の子どもは地域で育てることによる、地域力の向上。

事業内容 学校のある日の放課後に、小学校の空き教室などを利用して、地域住民による安全管理員が子どもたちの見守りや活動のサポートを行う。運営は、地域住民による実行委員会(事務局 公民館)が行っている。
 平成19年度開設・・・上庄、小山、阪谷、乾側
 平成22年度開設・・・富田
 各教室では、定期的に連絡会、安全管理員会、研修会を行っている。
 年1回、5つの教室と社会教育課で連絡会を開催している。

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均伸び率	行政改革推進プラン	
当初予算額	10,955	11,524	10,130	10,130	-2.9%	状況：環境の変化 事業が始まった平成19年度は4教室での実施であったが、平成22年度からは5教室になった。	
3月現行予算額	9,095	9,314	10,130	10,130	3.4%		
決算額(執行済額)	8,495	8,309	8,612	10,130	6.4%		
国庫支出金							
県支出金	5,701	6,448	5,708	6,719		事業開始後の見直し状況	
地方債							
その他特定財源							
国庫・県支出金名称	放課後子どもクラブ応援事業補助金						
その他特定財源名称	-					指標設定の考え方：積算根拠等	
活動指標	教室の開設数	5	5	5	0.0%	教室の開設数	
成果指標	登録児童数	141	163	173	180	7.7%	5つの教室の登録児童数

公共関与の必要性 放課後における子どもの安全な居場所づくりについては、市民のニーズも大きく市で取り組む必要がある。事業を実行するためには、家庭・学校・地域社会・行政が連携し、一体となって取り組むことが求められているため、市の関与は必要である。

有効性
 市民等のニーズとの一致 少子化により近所に遊ぶ相手がいない、外で遊ばせたいが不審者等の問題で安心できない、テレビゲームばかりでなく様々な遊びを体験させたい等、子どもの放課後の安全で充実した居場所づくりへの市民のニーズは高い。

目的達成状況 平成22年度に富田地区で教室が開設され、放課後子ども教室は5か所になった。児童クラブがない校区は、すべて開設されたことになる。いずれも地域住民によって運営されており、安全で安心な場所として利用されており、事業の目的は達成できている。

効率性
 事業内容・手法統合の検討 類似事業に、放課後児童クラブがあるが、目的、対象者、場所、従事者の違いがあり、現在統合することは望ましくない。

事業費削減の検討 安全管理員の経費については、毎月の利用者数や利用時間を考慮し適切に配置しているため、削減の余地はない。

民間委託(公営施設を含む)、市民協働の可能性 家庭、学校、地域、行政が連携して行っている事業であり、民間委託よりも現在の実施方法が望ましい。

総合評価
 現状分析及び改善された課題 当初から開設している教室は6年目を迎えており、各教室が地域の特色を出した運営を行っている。社会教育課としては、安全管理員の研修や教室訪問などにより、状況の把握が必要である。

中間評価
 実施状況 5教室において、実施している。
 事業評価 各教室では安全管理員会を随時開催し、活動計画や問題点などについて話し合い、より良い教室運営に努めている。
 改善方針 安全管理員のニーズにあった研修会を開催する。

方向性
 現状維持 整理統合
 拡充 廃止
 縮減 休止
 終了見直し 完了

事業の評価
 各教室では安全管理員会を随時開催し、活動計画や問題点などについて話し合い、より良い教室運営に努めた。安全管理員の研修を、県主催が1回、社会教育課で1回実施して、質の向上に努めた。23年度の小山放課後子ども教室に引き続き、阪谷放課後子ども教室が文部科学大臣表彰を受賞した。

改善方針 今後も各公民館と連携を取りながら教室運営に努めていくとともに、安全管理員の合同研修も、各教室間の情報交換を行う場でもあることから、最低年1回は実施していく。

方向性
 現状維持 整理統合
 拡充 廃止
 縮減 休止
 終了見直し 完了

見直し額 1,530 千円

事業の評価
 阪谷放課後教室が表彰を受賞したことで、ある程度評価できるが、安全管理員のあり方など、もう一步、工夫が必要。

改善方針 安全管理員への研修体制の強化、子どもたちへの指導内容の充実

方向性
 現状維持 整理統合
 拡充 廃止
 縮減 休止
 終了見直し 完了

見直し額 1,506 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分 一般会計 特別会計 企業会計

事業名 ふるさと大野今昔物語事業 含まれる事業数 1 所属 部(局) 教育委員会 課(室) 社会教育課 係 青少年女性係
 総合計画 人が元氣 産業が元氣 自然が元氣 行財政改革 事業区分 国・県 実行予算 補助金 その他 事業開始年度 24年度 経過年数 1年 終了年度 26年度 事務区分 自治事務 法定受託事務 その他

関連計画 対象 意図
 市民 大野市に関連する写真の収集

事業内容 大野市の歴史・伝統・文化を記録した写真やビデオ等を収集・保存し、貴重な財産として後世へ遺していく。
 収集・保存した写真等については、市制60周年関連事業や新庁舎完成に伴う事業、その他各種の市の事業で活用するほか、市内小中学校の郷土学習の資料や、高齢者サロンや福祉施設での回想法の手段として提供するなど、幅広い活用に努める。
 平成24年度 主に、西谷・五箇・和泉地区を重点調査
 平成25年度 大野市全地区を調査
 平成26年度 収集したデータの整理、資料貸出用としての整理、市制60周年記念事業で展示

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	実行年度	行政改革推進プラン	
当初予算額	0	0	3,000	0	#DIV/0!	状況：環境の密化	
3月現計予算額	0	0	3,000	0	#DIV/0!		
決算額(執行済額)	0	0	2,528	0	#DIV/0!		
財源内訳						事業開始後の見直し状況	
国庫支出金							
県支出金							
地方債							
その他特定財源							
一般財源	0	0	2,528	0			
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方・積算根拠等	
その他特定財源名称							
活動指標	写真提供者数	0	0	100	0	#DIV/0!	写真提供者数(訪問、郵便) 個人83、団体17
成果指標	収集写真数	0	0	2,036	0	#DIV/0!	データ化した写真の数

公共関与の必要性 個人が所有している大野市の歴史や生活の写真等を将来に遺していくため、市の関与が必要である。

有効性 市民等のニーズの一致 市長と語る会での意見に基づいた事業である。
 目的達成状況 計画通りに進んでいる。

効率性 事業内容、手法、統合の検討
 事業費削減の検討 2年目からは、県外での収集活動は減少するため、旅費が縮減できる。
 民間委託(公設民営を含む)・市民協働の可能性

総合評価 現状分析及び残された課題 大野市の歴史・伝統・文化を記録した写真やビデオ等を収集・保存し、貴重な財産として後世へ遺すことができるほか、収集・保存した写真等については、市制60周年関連事業や新庁舎完成に伴う事業、その他各種の市の事業での活用、市内小中学校の郷土学習の資料や、高齢者サロンや福祉施設での回想法の手段として提供するなど、幅広い活用が考えられ、効果の高い事業である。

中間評価 実施状況 5月から専任の嘱託職員を採用し、主に3地区の写真を収集している。 事業評価 事業は、工程表通り進んでいる。 方向性 現状維持 整理統合 拡充 廃止 縮減 休止 終期見直し 完了

一次評価 事業の評価 年度前半は、旧西谷村、五箇地区、和泉地区を重点的に調査し、後半は全地区を対象に調査を行った。チラシの全戸配布の他、各地区の区長会でもお願いしたり、わく湧くお届け講座で事業の紹介をしたりして写真収集に努めた結果、目標を大きく上回る2,000枚近い写真を収集することが出来た。 方向性 現状維持 整理統合 拡充 廃止 縮減 休止 終期見直し 完了
 改善方針 今後は、地区の敬老会での写真展示や、高齢者のサロンなどでのわく湧くお届け講座で、より多くの人に事業の周知を行い、写真を収集していきたい。同時に、市制60周年記念事業での展示や、今後の活用方法についても検討していく予定である。 見直し額 82 千円

二次評価 事業の評価 目標を上回る収集成果とPRなど市民への周知として「広報おの」や公民館などで展示しており、市民の関心も高まっている。 方向性 現状維持 整理統合 拡充 廃止 縮減 休止 終期見直し 完了
 改善方針 見直し額 -88 千円

平成24年度事務事業評価シート

事業名	地域・人づくり学習事業（全公民館）	事業区分	所属	教育委員会	課	社会教育課
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	国・県	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	年度	19年度
関連計画	心豊かな人づくり	事業区分	その他	<input type="checkbox"/> 補助金	経過年数	1年
		事業区分	市単独	<input type="checkbox"/> その他	終了年度	1年度
					事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定外事務 <input type="checkbox"/> その他

事業目的	対象	大野市民	趣旨	人づくりを通して地域づくりを推進する。
------	----	------	----	---------------------

事業内容
 幼児から高齢者まで、幅広い世代のニーズに応じた学習活動を通して、地域のリーダーを育成し、住民主体の地域づくりを行う。
 ・一般講座、家庭教育学級、少年教育学級、青年教室、高齢者教室等の実施
 ・各種地区団体事業の連絡、調整及び支援

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	増減率 (%)	行政改革推進プラン	
当初予算額	5,907	6,367	6,330	6,451	2.8%	状態・規模の変化	
3月現計予算額	5,743	6,367	6,330	6,451	3.6%		
決算額（執行済額）	5,085	5,393	5,521	6,451	7.4%	生活形態の変化や住民意識の変化により、学習ニーズが多様化しており、地域の帰属意識が薄れている。	
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源						
一般財源	5,085	5,393	5,521	6,451		市民ニーズに即した学習メニューを提供している。	
国庫・県支出金名称						指標設定の考え方、積算根拠等	
その他特定財源名称							
活動指標	講座・学級開設数	136	139	83	151	-6.7%	生涯学習の進展は、受講者数によるところが大きい目標とした。
成果指標						#DIV/0!	
	受講者数	16,668	17,648	17,196	19,090	4.2%	第5次大野市総合計画目標数を基に設定
						#DIV/0!	

公共関与の必要性	社会教育法の中に、「住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与すること」が公民館設置の目的であると規定されていることから、市が関与する必要がある。
有効性	多様な生涯学習の機会を求める住民ニーズに合致している。また、住民相互の連絡調整・交流・課題解決の面においても本事業は必要不可欠である。
目的達成状況	学習者の満足度は高く、ニーズに合致しているが、学習者の固定化が見られ、地域住民すべてを網羅しているとは言えない。
事業内容、手法、統合の検討	地域・人づくりの事業は、あらゆる機会にあらゆる角度からサービスを提供する必要があり、効率性を求めている事業内容、手法、統合等を検討することは望ましくない。
効果性	本事業はソフト事業であるため、お金をかけずに学習機会を提供していく工夫をすることにより、削減することは可能であるが、各学習内容を充実させるために、時には高額となる外部講師を招聘することも必要である。よって、人づくりをとおして地域づくりを推進するためには、事業費の削減は好ましくないと思われる。
民間委託（公民館運営を含む）、市民協働の可能性	民間委託については、公民館運営全体として委託できる可能性はあるが、本事業だけ切り取って委託することはできない。（公民館の存在意義がなくなる） 本事業は市民協働で行っている。
総合評価	趣味的な講座の参加者は多いが、地域課題に取り組むような内容の講座への参加が少ない。地域団体との連携をより強化するなどして、地域課題をテーマとしたより参加しやすい講座を企画、幅広い年代層が参加し交流できる機会を提供し続けていく必要がある。また、このようなことを通じて地域活動のリーダーとなる人物を発掘・育成し地域づくりへと結びつけていく必要がある。

中間評価	実施状況	概ね計画通り事業を実施しており、引き続きニーズの把握と検討を重ねながら、事業を実施していく。	事業評価	学習活動については活発であるが、次世代の担い手となる青年層の参加が少ない状況である。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 発見見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方法		事業の目的を念頭に、講座を企画する。住民ニーズを把握し、青年層など参加の少ない住民に対し、活動意欲を促すような事業を展開していく。			

事業の評価	各種講座・学級を当初設定した目標どおり開催することで、公民館の目的としている「生活文化の振興」「社会福祉の増進」に寄与できたとと思われる。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 発見見直し <input type="checkbox"/> 完了
水替方法	受講者について、青年層を中心に様々な理由から参加が少ない住民層に対し、講座・学級の内容・開催方法などを見直すことや新たなリーダーなどの発掘等による参加者層を広げることに取り組む。	評価	A
		見直し額	598 千円

事業の評価	各公民館の課題だが、青年層の受講率が課題である。仕事の関係上、時間的余裕がないのが原因と考えられる。事業評価としては、ある程度水準を満たしている。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 発見見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方法		評価	A
		見直し額	598 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	子どもの読書活動推進事業	含まれる事業数	1	所屬 部(局)	教育委員会	課(室)	社会教育課	係	図書館	
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元氣 <input type="checkbox"/> 産業が元氣 <input type="checkbox"/> 自然が元氣 <input type="checkbox"/> 行財政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他	実施予算	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	年度	終了年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	[心豊かなひとづくり]	事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独	経過年数	年度	年度	年度	事務区分		

事業目的	対象	意図
乳幼児・児童・生徒・保護者・指導者	大野市子どもの読書活動推進計画に基づき、基本図書を充実させ、子どもの発達段階に応じた図書を推奨する。	

「大野市子ども読書活動推進計画」を推進するため、図書館では長年読み継がれてきた基本図書を中心に蔵書整備し、個人や団体の貸出に供する。また、家庭、保育園・学校等での読み聞かせの大切さ、自主的な読書の楽しみと大切さ、本を選ぶことの重要性について、講座や講演会を通して大人の意識を高める。ブックスタート事業では、読み聞かせの体験とともに乳児期の親子のふれあいの重要性とメディアとの関係、読み聞かせのあり方を保護者に伝える。

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均伸び率	行政改革推進プラン 5行政経営の基本姿勢(4) 市民の視点に立ったサービスの向上 状況・環境の変化	
当初予算額	975	1,075	1,037	1,000	0.6%		
3月現計予算額	975	1,075	1,037	1,000	0.6%		
決算額(執行済額)	975	976	1,016	1,000	0.8%	急激に変化するメディアとの関わりにより、子どもの読書環境に大きな弊害がみられる。大野市子ども読書活動推進計画の「ノーテレビ・ノーゲームデー」を推奨する方策として、乳児期からの読書を介した親子のふれあいの重要性を伝えなければならない。	
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の見直し状況 ブックスタート事業の開催場所が保健センターから図書館になる。受講率が低下せず、効率的に実施できるよう、日程や方法を整える。	
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源						
	一般財源	975	976	1,016	1,000		
国庫 県支出金名称						指標設定の考え方、積算処理等	
その他特定財源名称							
活動指標	講演会	2	2	2	2	0.0%	子どもの読書環境整備の重要性を訴える機会をもち、計画および事業を推進する
	図書購入	116	122	180	120	-4.2%	良書の確保と奨励により、利用者との貸出冊数を増やす。
成果指標	講演会参加人数	55	83	138	100	11.8%	保護者のほか保育者や学校教員関係者への事業目的の浸透を図る。
	ブックスタート受講人数		190	176	190	33.1%	乳児期の家族に対し90%以上を目標とする

公共関与の必要性	読書は子どもの成長を助けることから、質の高い本を子どもたちに提供しなければならない。しかし、個人では多種多様で多量の図書から選書することでは容易でないため、公共図書館が中心となり、図書を収集提供や講座・講演会の開催を、市の取り組みとして体系的に推進する必要がある。
市民等のニーズとの一致	図書館利用者だけでなく、教育機関等から読み聞かせ会や子どもの発達に応じた本の紹介の依頼、また選書に関する質問が増加している。ブックスタートや講演会により、利用者との連携が生まれ、課題解決へと導くことができる。
有効性	ブックスタートにおいて、乳児の保護者と1対1で向き合うことによって、本を選ぶことの大切さや、メディアによる弊害の大きさを直接伝えている。その後、0、1、2歳児対象のわらべうたの会での子どもの様子を実際に見ることにより、保護者は読み聞かせなどの大切さを実感している。
事業内容、手法、統合の検討	近年は専門家によって「ストーリーテリング」が発達障害を持つ子ども達に有効との見解があるなど、子どもと読書の関係が重要視されている。子どもの読書環境を守るため、家庭や各機関と連携を図りながら事業を展開、拡大していく必要がある。
事業費削減の検討	事業全体としては削減の余地はない。
民間委託(公設民営を含む)市民協働の可能性	子どもをめぐる環境には、大変デリケートでプライバシーの尊厳に関わる問題も多くなってきている。個人的な相談を含むことが増えてきているので、保健センター等との連携が必要であり、守秘義務の厳守のためにも民間には委託はできない。
総合評価	子どもの読書活動は、継続的、組織的取り組みが必要である。また、周囲の大人の意識改革も重要となってくる。図書館での様々な事業に協力してくれる、確かな知識と豊かな経験を持ったボランティアの育成を継続していく必要がある。また、現在個々で活動している「読み聞かせボランティア」とも連携し、意識を高めていく必要がある。

中間評価	事業状況	乳児の保護者の関心は高まってきている。講座を終了したボランティアは、選書の重要性を理解して活動している。	事業評価	子どもも保護者も読書の重要性への意識が高まっている。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方策	図書館をあまり利用しない市民への働きかけを考える必要がある。	改善方策			

事業の評価	ブックスタート事業を図書館で実施したところ、直接絵本の貸出につながり、再度図書館を利用する家族がある。予防接種がない分、参加率が10%ほど低くなったが、事業自体は好評である。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方策	ブックスタートの参加率を上げるため、妊娠期、出生時に事業内容のチラシを配布して事前の周知を図る。講演会についても効果的な周知方法を検討し、大野市子どもの読書活動推進委員や各機関との連携を強める。	観点	A
		見直し額	-210 千円

事業の評価	本年度から、予防接種時に実施できなくなり、事業がスムーズに進むか懸念していたが、参加率の低下は想定内であった。今後、現状の中で事業効果を高めたい。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方策		観点	A
		見直し額	-210 千円

(2) 豊かな心を育てる文化力の育成

文化課

【重点施策】

- ◆ 文化的遺産の保存と活用
- ◆ 文化芸術の振興

平成24年度に重点的に取り組む事業

- 伝統文化の継承・文化財の調査研究と普及啓発
- 優れた文化芸術に触れ合う機会の提供と市民参加型事業の推進
- 文化施設の適切な維持管理と展示内容の充実

[主要事業の実施状況]

① 市美術展開催事業

昭和55年から開催し、33回目となる大野市美術展には、昨年度より9点多い、311点の出品がありました。また、来場者も昨年度より189人多い1,380人となりました。

これは、展示会場をより多くの方が鑑賞しやすいように中心市街地の結ステーションに移動したことが一つの要因と考えています。

また、表彰式では、受賞作品をスクリーンで紹介するなどの、より親しみやすく分かりやすいものとなるよう工夫しました。

② 文化公演事業

平成24年度には、大野市出身の指揮者、齋藤一郎氏と京都市交響楽団のコンサートをはじめ、劇団かかし座の影絵劇など11事業を開催しました。

齋藤一郎氏と京都市交響楽団のコンサートは、来場された市民から好評を得、また、翌日に中学生を対象とした楽器演奏のクリニックを行うなど、一流の音楽家と触れ合う機会を提供しました。

また、子ども劇場の「劇団かかし座」の影絵劇では、公演のあとに、舞台裏が見学できるバックヤードツアーを行いました。このように、教育委員会では、1つの事業で2つ以上の効果が得られる取組みを行うよう努めています。

そして、市民団体の自主的な文化活動（公演、展示会）を行う5団体の活動に対して、補助を行いました。

③ 地域文化振興事業

各家庭で保有している美術工芸品などの価値を見直し、市民に鑑賞の機会を提供する「我が家のお宝展」を開催しました。

できるだけ多くの方に来訪してもらえるように、会場を観光拠点となっている平成大野屋平蔵とし、開催期間も、人出が多い七間朝市開きに合わせて行いました。提供された作品57点の、所有に至った経緯やエピソード、説明などをつけて展示しました。

マスコミ等を活用して積極的に広報した結果、会期中は、1,817人と多くの来場者がありました。

④ 文化財環境保全整備事業

市内に残る文化財の保護啓発や管理等を行いました。平成24年度は、市指定文化財であった「南専寺山門」と「南専寺庭園」の2件が、県指定文化財に格上げされました。

大野市の文化財が県指定となるのは、平成6年以来、19年ぶりのことで、市内の県指定文化財は15件に増加しました。県指定文化財となった2件の指定解除を行った結果、市指定文化財の件数は、109件となりました。

⑤ イトヨ保護研究経費

本願清水イトヨの里では、イトヨの生態や生息環境の調査研究を継続的に行っています。また、市内の小、中学校児童生徒によるイトヨの観察、研究も長期にわたり、指導や研究成果を発表するなど学校との連携も進んでいます。

平成24年度は、本願清水の雑魚駆除を行ったほか、市内の湧水地や河川などイトヨの生息環境の保全に努めました。

また、本願清水内に生け簀を設置して、ザリガニや雑魚などからイトヨを保護し、イトヨの繁殖率がより高まるように努めました。

そのほか、イトヨ以外の市内に生息する貴重な魚類の保護など水環境の保全にも努めました。

⑥ イトヨ保護啓発推進事業

年間を通してイトヨの観察会をはじめ、特別展やシンポジウム、ビデオ上映会など、合計7回開催しました。

イトヨの観察会や稚魚放流会では、保育園児等に身近にイトヨと触れ合う機会を設け、生き物を大切に作る心の醸成に努めました。

また、HPの更新数（施設の話提供）は大幅に更新しました。これは、イトヨ観察会や稚魚放流会、雑魚駆除などのイベントや話題がマスコミにも大いに取

上げられ、情報発信が功を奏した結果と考えています。

しかし、24年度の入館者数は、平成14年の開館以来、初めて1万人を割り込む結果となり、平成24年度目標値を大きく下回りました。これは、施設敷地内での下水道工事や観察デッキの修繕など、見学に一部支障がでたことが、原因の一つだと考えています。

〔成果指標の達成状況〕

成果指標	H24目標	H24実績	H27目標
市指定文化財件数	112件	109件	115件
市が支援する文化公演などの回数	15回	11回	16回
展示会への来場者数	1,000人	1,817人	—
博物館来場者数	43,000人	45,397人	—
イトヨの里の来場者数	11,600人	9,613人	—

〔課題と今後の方向性〕

① 市美術展開催事業

第30回以降、出品点数が300点を超えるようになっており、今後は、この数字を維持していきたいと考えています。出展数だけでなく、市外からの出品が増えてきたことにより作品全体のレベルも上がっており、県美展に次ぐ美術展としての位置づけを目指していきたいと考えています。

また、市外の実来場者数の増加も期待して、開催期間を現在の3日間から5日間程度までに延長することを検討しています。

② 文化公演事業

平成24年度に市が支援する文化公演の開催数が、減少しました。第五次大野市総合計画で、平成27年度に16回の目標値を設定しており、回数増の取組みを積極的に行う必要があります。公演回数の増加のために、減少した原因の聞き取りや課題を検証すると共に、さらなる事業のPRに努めていきたいと考えています。

また、新たな視点に立って、効果的な事業の見直しや、団体等への助言を行うなど、市民の文化芸術に対する意欲を高めていく必要があります。

③ 地域文化振興事業

平成23年度「市民所有の絵画展」、24年度「我が家のお宝展」と新たな取組みを行い、いずれも盛況となりました。市民が文化に親しむ風土を作るためには、継続的に実施していくことが必要であると考えています。

また、事業後のフォローアップも大切で、昨年度に掘り起こした市民所有の絵画の活用方法についても検討していきます。

今後は、長期的な視点で計画を立て、芸術を「見て、触れて、参加できる」事業を企画していきたいと考えています。

④ 文化財環境保全整備事業

第五次大野市総合計画で、平成27年度に市指定文化財115件の目標値を設定しており、今後、指定文化財となりうる候補の調査と掘り起しが必要です。その際、どのように管理していくかもあわせて検討していかなければなりません。

また、近年、所有者等より指定文化財の修繕の要望が増加しており、事業の見直しも必要となっています。行政関与の範囲を検討するとともに、文化財関連補助金にあっては、要綱制定など補助内容を明確化する必要があります。

⑤ イトヨ保護研究経費

イトヨの保護、増殖の取組みは大野市の水環境保全・湧水文化再生に繋がるといっても過言ではありません。

残念ながら、これまで生息数の増に至っていませんが、その原因の一つとして、雑魚の増加と、湧水量の増加による下流への流失があります。

このため、継続した雑魚駆除、更に大々的な駆除が必要ですが、湧水量の増加、及びゲリラ豪雨による下流域への流失は、下流に堰を設けるなどハード面の整備も検討する必要があると考えています。

⑥ イトヨ保護啓発推進事業

平成24年度において入館者数が目標値を下回ったことから、入館者の増加を目指した取組みが必要な状況です。報道機関によるイベントのPRや貸館機能を活用した事業の誘致など、関係機関と連携を図り、これまで以上に誘客に努める必要があります。

また、本願清水とそこに生息するイトヨの保護だけでなく、大野市全体の水文化を守るという面もさらにアピールしていきたいと考えています。

整理番号 467

会計区分 一般会計 特別会計 企業会計

平成24年度事務事業評価シート

事業名	市美術展開催事業	含まれる事業数	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	文化課	係	文化係
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革		国・県	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算	\$65年度	経過年度	33年	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	豊かな心を育てる文化力の育成								

事業目的	対象	趣旨
市民及び県内の芸術愛好家		創作活動に励む市民や県内愛好家の創作活動の活性化を図ると共に、芸術に対する関心と理解を高める。

事業内容

県内在住の高校生以上の人から作品を募集し、33回目となる美術展を8月に開催する。

- ・洋画、日本画、彫刻・工芸、書道、写真の5部門において作品を募集。広く県内に周知を図る。
- ・審査会により、市長賞、市議会議長賞、教育委員会賞など各賞を決定。
- ・すべての応募作品を展示し、週末の3日間を会期とした展覧会を行う。
- ・最終日に別会場にて表彰式を行い、入賞者への賞賛と共に創作意欲に繋がる式典とする。

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均値	行政改革推進プラン	
当初予算額	587	710	770	780	8.7%	状況・環境の変化	
3月期予算額	587	710	770	780	8.7%	心の豊かさや潤いが求められている昨今において、芸術文化に触れる機会を提供することは重要である。また、生涯学習の推進として様々な講座が催され芸術分野への取り組みも多い中、本事業は日頃の研鑽の発表の場として位置づけることができる。	
決算額(執行済額)	507	710	674	780	12.2%	事業開始後の異変・状況	
財源内訳						当初は文化協会の主要事業として開催していたが、現在は行政と運営委員会の双方が主体となり相互協力のもと開催している。事務作業の強化を図りながら、問題点を次年度には解決していく方向で進めている。	
国庫・県支出金名額							
その他特定財源名額						指標設定の考え方、重要項目等	
評価指標	応募作品点数	333	302	311	320	-1.5%	創作意欲を高め、底辺を拡大し、出品する人を増やす
						#DIV/0!	
	来場者数	1,419	1,191	1,380	1,500	0.8%	来場者数が増えることにより芸術に対する関心が高くなると考えられる
						#DIV/0!	

公共関与の必要性	講演会やコンサートは市民が自ら企画し運営することもできる事業であるが、市内外を対象する総合的な本美術展は行政が行う必要があると考える。市民にとっても本市の文化レベルを測れる機会であり、行政が中心になり実施する必要がある。
市民等のニーズの一致	市民にとっては定着した美術展であり、文化祭に出品した後や公民館講座を受講した後に市美展への出品を目指して創作を続ける人も多い。様々なジャンルの作品を身近な場所で鑑賞できる数少ない場でもある。
目的達成状況	昨年に引き続き、まちなか交流センターを展示会場に実施し、昨年を上回る出品数と来場者数となった。また、表彰式については、音と映像により入賞者だけでなく奨励賞受賞者の創作意欲を高める式典が開催できた。
事業内容、手法、統合の検討	統合できる事業はない。 他の事業でも有孔ボードをパネルとして使用する頻度は高いが、汚れや破損で劣化している上に運搬設置に労力と費用が嵩んでいる。設置が容易なパネルの購入を検討していく必要がある。
効率性	会場設営・撤去の委託料を縮小できれば、事業費の削減は可能である。
民間委託・公取民営を含む市民協働の可能性	運営委員を委嘱し運営に携わってもらっているが、すべてを委託することは運営上困難である。行政と市民が対等な立場で協力して行うという観点からみれば、早い時期から市民協働に類似した体制がとられている。
総合評価	第30回の開催を契機に、300点を超える出品数が見込まれるようになった。展示会場の規模や創作人口の現状から見て、今後はこの数字を維持していくことを考えたい。市外からの出品が増えてきたことにより全体のレベルが上がっている。今後は県内において県美展に次ぐ美術展としての位置づけを目指したい。また、展覧の期間を現在の3日間から延ばすことを検討し、市内の来場者数の増加を図っていく必要がある。

中間評価	<p>出品作品数311点、入場者数1,380人であり、市外からの出品作品も多くあった。来場者から力作ぞろいで見ごたえがあったと好評であった。</p> <p>表彰式も受賞作品をプロジェクターで映し出すなど、被表彰者が来てよかったと思えるように工夫して実施しており、よい事業である。</p> <p>展覧の期間を延長することなどを検討して、市内の来場者数の増加を図る。</p>	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
------	---	--

一次評価	<p>市民の創作活動の活性化に寄与しており、出品作品数、入場者数共に増加し、来場者からも力作ぞろいで見ごたえがあったと好評である。運営も工夫して実施しており、市民と行政が協働して行う効果的な事業であった。</p> <p>改善方針 会期を従来の3日間から延長することを検討する。</p>	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了	74 千円
------	--	--	-------

二次評価	<p>応募作品数や来場者数から、一定の評価を得ているものの、より市民に親しまれる市美展にする必要がある。</p> <p>改善方針 まず、会期を5日間に延長することで、来場者数の増加を図りたい。</p>	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了	20 千円
------	--	--	-------

平成24年度事務事業評価シート

会計区分: 一般会計, 特別会計, 企業会計

事業名: 文化公演事業
含まれない事業数: 0
所屬: 教育委員会
前(局): 文化課
種(型): 文化課
備考: 人元気, 産業元気, 自然元気, 行政改革

事業目的: 市民
多彩な文化公演事業の開催

市民が自ら企画・実施する公演、展示に対して大野市文化事業補助金交付要綱に基づき補助金を交付する。また、本格的な舞台芸術等の自主事業を実施する。自主事業として、①故新藤兼人監督の遺作映画「一枚のハガキ」の上映会②故黒澤明監督作品を上映する映画まつり③2年に1回開催の大野市子ども劇場実行委員会主催の市外劇団による演劇公演 劇団かかし座影絵劇「宝島」上演とバックステージツアー④大野市出身の指揮者齊藤一郎と大野市在住の松谷由美所属の京都市交響楽団によるクラシックコンサート及び中学生吹奏楽クリニックを実施する。

Table with columns for fiscal years (22年度, 23年度, 24年度, 27年度) and rows for budget items (当初予算額, 3月採計予算額, 決算額, 国庫支出金, 県支出金, 地方債, その他特定財源, 繰越金, 国庫・県支出金名称, その他特定財源名称, 活動指標, 成果指標).

公共関与の必要性: 民間による文化公演等のサービスの供給が困難なため、市民団体の自主財源だけでは事業の開催が難しい。
有効性: 市民等のニーズの一致: クラシックコンサートや児童演劇、若者向けのコンサート等幅広い世代を対象に公演事業を実施しており、来場者等からの継続等の要望が多い。
目的達成状況: 補助事業の募集をHPや広報おおの等を活用し、広く周知するよう努めた。また、ポスターやHP、新聞の記事掲載等により、公演を周知し、入場者増に努めた。大野市出身の指揮者齊藤一郎指揮によるクラシックコンサートを行い、その翌日には京都市交響楽団員等の指導で中学生吹奏楽クリニックを実施した。
事業内容・手法・組合の検討: 大野市文化事業補助金と合わせて、県や財団等による文化公演事業に対する補助制度を活用することにより、数多くの公演事業や大規模な公演事業ができる。
効果性: 事業費削減の検討: 適切な補助金の使用について、事業実績報告時の審査、監査を行い事業に沿わない経費の削減を行う。
民間委託(公設民営を含む)・協働の可能性: ある程度自主運営ができる事業、団体については独立を促すよう指導する。
総合評価: 現状分析及び課題: 文化公演事業補助金は、自主財源がないと実施できない制度のため資金力のない団体が実施するのは難しい。県や財団等の補助事業を活用した事業の展開についても、回数や金額等の制限があり財政的に厳しい状況である。

中間評価: 映画上映会や演劇公演会を実施しており、今後音楽会を計画している。
事業評価: 優れた文化芸術に触れ合う機会の提供として、必要な事業である。
改善方策: 国や県、文化財団などからの補助事業を活用した事業展開に取り組む。
方向性: 現状維持, 拡充, 縮減, 廃止, 休止, 終了

一次評価: 大野市出身の著名な指揮者を招聘してクラシックコンサートを開催し中学生吹奏楽クリニックを実施するなど、多彩な文化公演事業を開催する有効な事業であるが、市民が自ら企画・実施する公演等の文化芸術活動が少なかったため、成果指標を達成できなかった。
改善方策: 市民が自ら企画・実施する公演等の文化芸術活動の開催を支援するため、大野市文化事業補助金の活用を呼びかける。
方向性: 現状維持, 拡充, 縮減, 廃止, 休止, 終了
見直し額: -3,909 千円

二次評価: 成果指標を達成できない点で、市民の文化芸術意欲が湧き上がってこないことが、この事業の課題である。
改善方策: 企画・推進する団体やグループの活性化などについて、補助金だけでは困難な面があるが、何がネックになっているか、意見徴集しながら実情を把握する必要がある。
方向性: 現状維持, 拡充, 縮減, 廃止, 休止, 終了
見直し額: -4,802 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分
■ 一般会計
□ 特別会計
□ 企業会計

事業名 地域文化振興事業
総合計画
開運計画
所属 部(課) 教育委員会 課(室) 文化課 係 文化係
事業区分
業務区分

事業目的
市民
趣向
楽しさや感動、安らぎや喜びをもたらすことにより、豊かな人間性や創造性を育み、地域文化の活性化を図る。

事業内容
市民が所有する美術工芸品を、鑑賞という行為により共有する展示会を開催する。(開催期日は3月の七間朝市開きと同時期とする)
市民が個人で所有している美術工芸品を募る。
家に代々伝わっているものや本人がお宝と認識し大切にしているものを展示し、鑑賞の機会を提供する。

Table with columns for fiscal years (22, 23, 24, 27) and budget details (当初予算額, 3月現計予算額, 決算額, etc.)

公共関与の必要性
有効性
事業内容、手法
統合の検討
事業費削減の検討
民間委託(公民連携を含む)の市民協働の可能性
総合評価
現状分析及び発見された課題

中間評価
実施状況
市民所有の美術工芸品展の開催に向けた企画を立案中である。
事業評価
地域の持つ文化を掘り起こし、地域の活性化のために必要な事業である。
改善方針
事業の内容によって、実行委員会と協働で実施することも検討する。

事業の評価
改訂方針
幅広い年代の人が楽しめるよう、市民が所有するレトロな展示会の開催等も検討する。
評価点 A
見直し額 -52 千円

事業の評価
改訂方針
本市には、絵画等眠っているお宝が多い。これらをどのように発掘し、ブランド化していくか、今後の工夫や手法を検討する必要がある。
評価点 B
見直し額 -84 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計
	<input type="checkbox"/> 特別会計
	<input type="checkbox"/> 企業会計

事業名	文化財環境保全整備事業	含まれる事業数	6	所属	部(局) 教育委員会 課(室) 文化課	係	文化係
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行政改革	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	年度	終了年度	年度
関連計画	豊かな心を育てる文化力の育成						

対象	市民、文化財(指定・未指定)	意図	文化財を適切に管理し、文化財愛護意識を高める
----	----------------	----	------------------------

事業内容	指定、未指定を問わず文化財を適切に管理する 佐開遺跡(未指定)、角野前坂遺跡(市史跡)、戌山城跡(市史跡)の管理 歴史的建造物評定委員会の運営 化石保護 歴史講座の開催 指定文化財管理者への管理費等補助
------	--

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均値(比率)	行政改革推進プラン	
当初予算額	842	847	973	847	-0.4%	状況：環境の悪化	
3月現計予算額	1,109	847	973	847	-10.9%	文化財保護や価値を見直す市民の意識が高まってきており、地域固有の歴史や文化に対する見方も変化しつつある。また、観光資源としての活用面からも文化財への関心が高くなってきている。一方、文化財所有者の高齢化、地域の過疎が進み、管理を市に委ねるケースが目立つようになってきている。	
決算額(執行済額)	891	512	634	847	-10.9%	事業開始後の実績状況	
国庫支出金						H20年度より、化石保護規則および歴史的建造物評定委員会設置に伴い、関係予算を追加。文化財修理補助要望に迅速に対応するため、H23年度から恒常的に予算化。	
県支出金							
地方債							
その他特定財源							
一般財源	891	512	634	847			
標準設定の考え方、積算根拠等	指標設定の考え方、積算根拠等						
活動指標	文化財の指定(上位指定含む)	0	0	0	1	#DIV/0!	法的根拠を持って管理支援(補助金交付)可能な文化財件数
成果指標	補助金交付件数	3	0	0	1	#DIV/0!	実際に補助金交付し管理支援した文化財件数

公共関与の必要性	文化財保護法に基づき、国民共有の財産である文化財を保存継承するため、国の施策に準じた施策及びその地方公共団体の区域の特性に応じた施策を策定し、実施する責務を有する。
有効性	市民等のニーズとの一致 文化財指定の要望や、既に指定したものにあっては修理や管理の補助要望などがある。
	目的達成状況 要望の高いものに関しては、予算化するなど概ね対応はできている。
効果性	事業内容、手法統合の検討 文化財に係る要望が増加、多様化しつつある。それに対応するため事業内容も多様化する可能性が高い。
	事業費削減の検討 文化財管理に係る事業は既に地元等に委託している。その他の事業にあっては、会議運営や補助金など費用負担の側面が強く、削減の余地は低い。
	民間委託(公設民営を含む)市民協働の可能性 文化財管理に係る事業は既に地元等に委託しており、市場より安価に実施できている。
総合評価	現状分析及び残された課題 今後さらに要望が増加、事業が多様化する見込みが高い。どこまで行政として要望に対応していくべきなのか考えておく必要がある。文化財関連補助金にあっては支出基準が曖昧な部分もあるので、要綱制定など明確化する必要がある。

中間評価	実施状況 カモシカの保護や遺跡管理、化石採取パトロールなどを実施している。今後、面谷鉾山跡バス研修会も開催を予定している。	事業評価 文化財を保存継承していくためには必要な事業である。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
		改善方針 文化財に係る要望に対し、市としてどこまで対応するべきか検討する。		

一次評価	事業の評価 文化財を保存継承していくためには必要な事業であった。	方向性	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input checked="" type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針 文化財に係る要望に対し、市としてどこまで対応するべきか検討する。	評価点	B
		見直し額	-128 千円

二次評価	事業の評価 文化財において、史跡や古墳など大規模な調査活動などにおいて、一部遅れがあった。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針 地域や関係者との積極的な協議などで、計画的に進める必要がある。	評価点	B
		見直し額	-128 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分: 一般会計, 特別会計, 企業会計

事業名: イトヨ保護研究経費
総合計画: 豊かな自然環境の保全と創出
関連計画: 大野市環境基本計画

事業目的: 国指定天然記念物「本願清水イトヨ生息地」や市内に生息、飼育されているイトヨ
本願清水及び市内に生息するイトヨの生態や生息環境を調査研究することにより、環境省・県納減危惧種でもあり市の魚であるイトヨを保護・繁殖を図る

事業内容: 研究室、生息池内のエンクロージャーにおける飼育と繁殖
本願清水及び市内のイトヨ生息調査
市内小中学校の総合的な学習の支援
イトヨ生息地の整備（危険分散としての第3生息地）

Table with columns for fiscal years (22年度 to 27年度) and budget items (当初予算額, 8月現計予算額, 決算額, etc.). Includes a table for '国庫・県支出金名称' and 'その他特定財源名称'.

公共財としての必要性: 文化財保護法、大野市文化財保護条例に基づき、市民共有の財産である国指定文化財及び絶滅危惧種であるイトヨの保護保全、及び水文化を継承するため、市は国の施策に準じた施策及びその地方公共団体の区域の特性に応じ実施する責務を有する。また、本市湧水文化再生事業の一環としての役割を有する。
有効性: 市の魚であり、大野市の環境・湧水文化再生のパロメーターでもあるイトヨの保護は、大野市の水環境を考える上で、市民のニーズに合致している。
目的達成状況: 8月末までに雑魚約1,000匹を排除したが更なる駆除が必要である。近年新たな問題として湧水量の増加やゲリラ豪雨によるイトヨの下流域への流失がある。エンクロージャー（生簀）を設置し積極的に繁殖を試みるが増加には至っていない。義景清水のイトヨ生息地復元への提言を実施し、第三生息地として改修が完了し今年度中にイトヨの放流を実施する。
事業内容、手法、統合の検討: イトヨを保護することが、大野市の水環境保全・湧水文化再生に繋がるため、積極的に他の生息地も整備など拡大する必要がある。
事業費削減の検討: 最低限の必要経費と考えられるため、削減の余地はない。
民間委託（公設民営を含む）、市民協働の可能性: イトヨの保護増殖については、イトヨの特性を踏まえた業務で専門性も高く、効率性を考えた安易な民間委託は困難と考える。本願清水以外の生息地では中野清水があるが既に市民団体による保全活動が進められている。義景清水においても今年度市民団体が立ち上がり、イトヨの住む清水造りに着手した。雑魚駆除は大野市漁協やイトヨの会の協力で既に市民協働を行っている。
総合評価: 現状分析及び発生された課題: 生息数の増に至っていない原因が、雑魚の増加と湧水量の増加による流失であることから、継続した雑魚駆除や大々的な駆除が必要である。湧水量の増加、及びゲリラ豪雨による下流域への流失は、下流域にハード的な対策が必要である。

中間評価: 事業内容: イトヨの飼育や繁殖、生態調査や雑魚駆除などを行っている。
改善方針: 施設の維持管理と、継続した雑魚駆除に努める。
評価: 現状維持, 拡充, 縮減, 終期見直し, 廃止, 休止, 完了

事業の評価: イトヨの生態や生息環境の調査研究を行っており、イトヨを保護することが大野市の水環境保全・湧水文化再生に繋がるため、効果的な事業であった。
改善方針: 施設の維持管理として計画的な修繕に努め、継続して防鳥対策や雑魚駆除等に取り組む。
評価: A
見直し額: -349 千円

事業の評価: イトヨ生息地を新たに義景公園内で設けるなど、その取組み内容や事業成果も十分目標・目的を達成している。
改善方針:
評価: A
見直し額: -353 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	イトヨの里保護啓発推進事業	担当部署	1	所属	前(備)	教育委員会	課(室)	文化課	係	本願清水イトヨの里
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input checked="" type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行政が改革 [豊かな心を育てる文化力の育成]									
関連計画	第五次総合計画									
事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金	13年度 経過年数	終了年度 11年	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他				

事業目的	大野市民及び市外来館者	趣意	環境のパロメータでもあるイトヨの保護とその生息環境の保全、大野の水環境のあり方を考える事が、湧水文化の再生と将来の世代に豊かな自然を継承していくことにつながる。
------	-------------	----	--

事業内容	企画展、シンポジウムの開催をとおしてイトヨの保護及び環境保全について啓発 ホームページで情報を発信 イトヨや水環境に関する学習会や野外での体験学習の支援
------	--

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均伸び率	行政改革推進プラン	
当初予算額	510	1,057	406	510	-72.8%	状況：環境の変化	
3月期予算額	510	1,057	306	510	-110.7%	市内小中学校のイトヨやイトヨを通じた水環境の学習利用においては十分利用されている。今年度は大きなイベントは予定されていないが、これまでの事業によって広く一般大野市民においても、イトヨ保護への関心が深まってきている。入場者数は保護啓発推進の指標でもあるため、増加への試みを継続して行う。	
決算額(執行済額)	425	1,080	293	510	-53.1%	事業開始後の実績状況	
財源内訳						イトヨの保護啓発を推進する様々なイベントや企画を展開してきている。入場者の増加に結びつける試みとして、特別展開催において他の機関との連携(共催)を図る等、新しい手段に取り組み始めている。	
国庫支出金							
県支出金							
地方債							
その他特定財源							
国庫・県支出金名称						指標設定の着実な推進が実施	
その他特定財源名称							
活動指標	ホームページ更新回数	46	40	40	-5.0%	啓発活動として実施したイベントなどをHPで情報公開する。	
成果指標	入場者数	11,886	11,023	9,618	12,000	-0.8%	イベントなどのHPを通じた案内で入場者数の増を図る。 #DIV/0! 前年度対比105%目標。

公共関与の必要性: 文化財保護法、大野市文化財保護条例に基づき、市民共有の財産である国指定文化財及び絶滅危惧種であるイトヨの保護保全、及び水文化を継承するため、市は国の施策に準じた施策及びその地方公共団体の区域の特性に応じ実施する責務を有する。また、本市湧水文化再生事業の一環としての役割を有する。

市民等のニーズとの一致: 学校関係、総合的な学習、職場体験、豊かな体験学習、ボランティアの受け入れ、一般市民(市内外)の生涯学習のニーズに対応している。

目的達成状況: 企画展、シンポジウムを含むイベントは内容の濃いものであり、様々な方面からの視察研修の受け入れや他機関のシンポジウムなどへの参加では講演や事例発表など情報発信としては過去の実績以上に成果があったが、入館者の増加には繋がらなかった。現在まで、前年度対比83.6%と2年続けて前年度を下回る結果となった。

事業内容・手法・統合の検討: イトヨの保護啓発は、湧水文化の再生、大野の将来の水環境を考える上での指針となるため、拡大する必要がある。

効果性の検討: 学習施設としての利用は継続して一定の成果を得ているが、土日やGW・夏休み期間の観光の場としての集客を増加すべく、参加型の施設としての施策を検討する必要があり削減の余地はない。

民間委託(公設民営を含む)・市民協働の可能性: 市民協働に関しては、糸魚町の草刈や大野市漁協の雑魚駆除の協力など、すでに市民協働を行っているといえる。市内のイトヨ保護啓発団体である、大野イトヨの会が真の市民団体として独立し、行政と市民による啓発推進、市民協働が望まれるが、現状では独立して会を運営することは困難と考える。

総合評価: HPの更新数(施設の話題提供)は目標達成の予定である。事業としては、イトヨ観察会や雑魚放流会、雑魚駆除などのイベントや話題がマスコミにも大いに取上げられ、情報発信基地としての役割を十分果たしている。本年度はビッグイベントの開催予定が無いため、現状を維持、更に拡大するには内容の濃い企画展など、当施設だけでなく他関係機関との連携が必要であると考え、初めて福井県自然保護センターと共催で特別展を開催した。また、天然記念物「本願清水イトヨ生息地」以外のイトヨや他の希少魚の保護には「ふるさと大野の野生動物植物との共生に関する条例」などの制定に向けての継続した事業展開が必要である。

中期評価	イトヨの観察会などのイベントや特別展を開催している。	事業評価	イトヨの保護啓発は湧水文化の再生・大野の将来の水環境を考える上での指針となるため、必要な事業である。	改善方策	イトヨ観察会や企画展など他機関と連携した事業に取り組む。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
------	----------------------------	------	--	------	------------------------------	-----	--	--

事業の概要	年間を通してイトヨの観察会などのイベントや特別展、シンポジウムを開催して、イトヨの保護と湧水の町大野市を啓発した効果的な事業であった。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
改善方策	イトヨ観察会や企画展など他機関と連携した事業に取り組み、来場者数の増加を図る。	見直し額	-24	千円

事業の評価	平成25年2月9日に開催した「イトヨシンポジウム」は、盛況で内容のあるものであった。全国に、本市のイトヨをアピールしている実績も、水準以上の成果である。ただ、入場者数の減傾向は歯止めをしなければならぬ。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 終期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
改善方策	入場者数の増加に向けて、更なる取り組み必要	見直し額	-60	千円

(3) 活力あふれるスポーツ社会の実現

スポーツ課

【重点施策】

- ◆ 生涯スポーツの推進
- ◆ 競技力の向上
- ◆ スポーツ施設の整備と充実

平成24年度に重点的に取り組む事業

- スポーツに触れる機会の充実
- 競技スポーツの底辺拡大と競技者・指導者の育成支援
- 学校やスポーツ団体との連携強化
- B & G海洋センター事業の推進

[主要事業の実施状況]

① 生涯スポーツ推進事業

市民の誰もが気軽にスポーツを実践できる機会を提供するため、次の各種大会、スポーツ教室等を開催しました。

- ・ 第16回スポーツ・レクリエーション祭
- ・ 第21回スーパードッジボール大会
- ・ 体力テスト（成人向け）
- ・ スポーツ教室「みんなでスポーツ」

また、総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」の広報活動や教室等開催時の会場使用に対する支援を行い、市民自らがスポーツに携わる意識の醸成に努めた結果、今年度の目標値を越える1,871人の参加がありました。

② 越前大野名水マラソン開催事業

48回目となる本大会は、過去最高の4,107名のランナーの参加を得て開催しました。そして、多数の市民がランナーとして、運営ボランティアとして参加し、「名水のまち大野」を全国にPRする絶好の場となりました。

また、オリンピック水泳競技メダリストの中村真衣氏をゲストランナーに迎え、前日には水泳教室の指導者として、大会当日はスターター、ゲストランナーとして大会に花を添えていただきました。

③ 各種大会開催事業

競技力の向上・競技スポーツの底辺拡大を図るため、次の大会を開催しました。

- ・ 第44回市民総合体育大会（夏季）
- ・ 第49回奥越ふれあい駅伝大会
- ・ 第26回小学生相撲選手権大会
- ・ 市長杯争奪高等学校野球大会
- ・ 第56回市民総合体育大会（冬季）
- ・ 第34回九頭竜スキー選手権
- ・ 第18回I ZUMIクロスカントリースキー大会

・各種市民大会（24種目）

市民総合体育大会は、気軽に参加できるとともに、地区対抗方式であることから、地域社会への参加意識を向上する絶好の機会となっています。

また、奥越ふれあい駅伝大会や小学生相撲選手権大会は、毎年多くの参加者があり、市民に参加しやすい大会として定着しています。

市長杯争奪高校野球大会は、技術力の向上と選手の交流による競技の活性化を図るため、今年度より坂井市との共催で年2回の開催としました。

④ 学校体育施設開放事業

楽しく安全にスポーツ活動ができる場として、身近な学校体育施設（小学校8校、中学校4校）を市民に開放しています。

この施設は、競技スポーツ以外に、生涯スポーツ、レクリエーション活動で多くの市民に利用されており（平成24年度利用者実績146,354人）、施設管理員を委嘱し、施設の維持管理に努めました。

⑤ スポーツ少年団育成事業補助

青少年の心身の健全な育成に寄与するため、スポーツ少年団の運営経費や団員・指導者等の傷害保険料等を補助しています。

なお、人口減少・少子化の背景の中で、スポーツ少年団の運営が問題となっていますが、平成24年度中に登録団が1つ結成し、市内のスポーツ少年団数は29に増え、明るい話題を提供しました。

⑥ 全国大会等出場参加補助

全国大会等の出場選手の経費負担を軽減するため、経費の一部（小中学生は2分の1、一般は3分の1）を補助しています。

平成24年度の補助実績は次の10競技、16の全国大会と5つのブロック大会に出場した個人および団体です。

- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| ・バウンドテニス | ・軟式野球 | ・ソフトボール | ・卓球 |
| ・相撲 | ・バレーボール | ・空手 | ・バドミントン |
| ・スキー | ・スノーボード | | |

⑦ スポーツ交流大会開催事業

県内外の優秀なチームを招いて、市内の宿泊を伴う大会を主催した競技団体等に対し、大会運営費の一部を補助しました。平成24年度の補助実績は、5大会、

5団体、延べ777人でした。

選手の技術力向上と関係者の競技スポーツに対する理解を深めるとともに、優秀なチームとの交流を行うことで、市全体のスポーツの活性化を図りました。

〔成果指標の達成状況〕

成果指標	H24目標	H24実績	H27目標
名水マラソン参加者数	4,000人	4,107人	4,300人
みんなでスポーツ参加者数	1,800人	1,871人	2,100人
スポーツ施設利用者数	250,000人	264,040人	260,000人
スポーツ大会等での事故等発生件数	0件	0件	0件

〔課題と今後の方向性〕

① 生涯スポーツ推進事業

平成24年度に参加希望者が定員に達せず、開催できなかったスポーツ教室がありました。特に、20代から40代の青・壮年世代の参加率が低調であり、これは日常的にスポーツを実践する時間の確保が難しいことが原因の一つと考えられます。

このため、今後、市民の誰もが、いつまでもスポーツができるよう、教室の開催時間・内容等について検討します。

② 越前大野名水マラソン開催事業

今年度の大会は、近年のマラソンブームもあり過去最高の参加者を迎え、今年度の目標値を上回りました。その一方で、運営ボランティアの人数確保が難しく、沿道での交通整理やコース規制案内等に支障をきたしました。

平成30年福井しあわせ元気国体の開催を控え、大会の企画や運営、応援、ボランティアとしての協力・参加への関心を高める方策を検討する必要があります。

③ 各種大会開催事業

各種大会の中で、冬季の競技であるスキー大会（市民総合体育大会冬季大会・九頭竜スキー選手権大会・IZUMIクロスカントリースキー大会）は、競技人口・参加者の減少が顕著であり、冬季スポーツのあり方についての検討が急務となっています。

④ 学校体育施設開放事業

市民が地域で気軽にスポーツ、レクリエーション活動ができる場として定着し、スポーツ施設利用者数は第五次総合計画の平成27年度目標値を既にクリアしています。しかし、施設の収容能力はほぼ限界に近い状況です。

更に、平成25年度中には市役所新庁舎の建設工事に伴い、長年親しまれてきた「市民グラウンド」の閉鎖が決定しており、この状況に拍車がかかることが予想されます。

また、老朽化による頻繁な修繕や、安全管理の確保など、学校施設管理者と連携を密にしながら、利用しやすい環境づくりが急務となっています。

⑤ スポーツ少年団育成事業補助

団員数が減少している中で、登録団数が1つ増えたことは、指導者をはじめ母集団の熱心な活動の成果と考えられます。

しかし、野球・バレーボール等の団体競技では、メンバーの確保に苦慮しチーム編成もままならない状況が広がりつつあります。

スポーツ少年団活動は、青少年の心身の健全育成という目標のほか、全国規模の大会で活躍できるジュニアアスリートの養成の場という役割を担っています。急速に進む人口減少・少子化の中で、スポーツ少年団のあり方の再検討が必要となっています。

⑥ 全国大会等出場参加補助

この事業は、選手の育成に直接的に働きかけるものではありませんが、全国大会等出場者の財政的負担を軽減することで、トップアスリートの育成に側面から支援する事業として、今後も継続した取り組みが必要となっています。

⑦ スポーツ交流大会開催事業

市・県外の優秀なチームを招いて交流大会を開催することは、地元選手がレベルの高い経験を積むことで技術力の向上が期待できます。

また、平成30年福井しあわせ元気国体の地元開催に向けて、市全体のスポーツイベントに対する参加意識の高揚を促すきっかけとなるよう、効果的な事業展開が必要となっています。

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計
	<input type="checkbox"/> 特別会計
	<input type="checkbox"/> 企業会計

事業名	生涯スポーツ推進事業	含まれる事業数	5	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	スポーツ課	係	社会体育係			
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 活力あふれるスポーツ社会の実現			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金	事業開始年度	年度	経過年数	終了年度	年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	大野市スポーツ推進計画												

対象	市民全体	意図	市民の週1回以上のスポーツ実施率を50%とする。(生涯スポーツ社会の実現)
----	------	----	---------------------------------------

各種スポーツ教室・大会を実施し、市民のスポーツ実践に対する意識の向上を図り、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術及び目的に応じて、いつまでもスポーツを実践する生涯スポーツ社会の実現を目指す。
 スポーツ教室「みんなでスポーツ」の実施(各公民館及びスポーツ課によるスポーツ教室)
 大野市スポーツ・レクリエーション祭の開催 1回、スポーツ大会の開催 1回(スーパードッジボール大会)、体力テストの実施 5回
 総合型地域スポーツクラブ(みんスポクラブ)との連携・協力

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均伸び率	行政改革推進プラン	
当初予算額	3,064	2,949	2,919	2,800	-3.0%	状況：環境の変化	
3月現行予算額			2,919		#DIV/0!		
決算額(執行済額)	3,065	3,027	2,210	2,800	-5.7%	平成16年4月に総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」が設立され、生涯スポーツの実践活動の場所(受け皿)が確保された。近年、健康増進に対する意識が高まっているなど、健康づくりの手段としてスポーツを実践する人が増えている。	
財源内訳						事業開始後の見直し状況	
国庫支出金							
県支出金							
地方債							
その他特定財源	311	293	263	200			
総財源	2,754	2,734	1,947	2,600			
国庫・県支出金名称							
その他特定財源名称	スポーツ大会参加料、生涯スポーツ参加料、スーパードッジボール大会参加料						
活動指標	みんなでスポーツ開催回数(回)	205	180	186	210	0.2%	参加者の増加により、市民がスポーツを実施する機会が増える。
成果指標	みんなでスポーツ参加者数(人)	2,052	1,855	1,900	2,100	0.4%	

公共関与の必要性	民間のスポーツクラブだけでは、実施できる種目や場所が限られている。市民のスポーツ実施率を向上させるためには、市民の誰もが参加できる多様な事業を行う必要がある。
有効性	市民等のニーズとの一致 スポーツへの参加意欲(特に高齢者)が高まっており、様々な年代が参加できるスポーツ教室が求められている。 目的達成状況 スポーツ課及び公民館で実施している「みんなでスポーツ」は、新たな講座等を開催しているが、参加者は例年並みとなる見込み。
効率性	事業内容、手段、統合の検討 年間を通して事業を実施しており、更なる事業拡大の必要性は低い。総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」がさらに発展し、自発的かつ継続的な活動がなされるようになれば、本事業の縮小の余地も生じる。 事業費削減の検討 大野市体育協会、各種競技団体等との連携により、指導費削減の余地がある。 民間委託(公営民営を含む)、市民協働の可能性 すでにいくつかの講座を民間企業等に委託している。今後は、市民からの提案による講座の開設など市民との協働による取り組みを検討していく必要がある。
総合評価	現状分析及び見直された課題 生涯スポーツ社会の実現に向け、総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」が組織されているが、本事業で実施している「みんなでスポーツ」の種目及び参加者が「みんスポクラブ」のメニューへの組み入れ及び会員の増加につながりづらいのが現状である。 また、みんスポクラブ指導者の確保・養成や会員の自主運営意識の向上が求められる。

中間評価	実施状況 民間企業等への委託や、各種競技団体から講師を派遣いただいて教室を開催するなどしている	事業評価 スポーツ課、公民館共に例年並みの参加者数	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 長期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了
改善方法	周知方法を改善する				

事業の評価	スポーツレクリエーション祭やスーパードッジボール大会は多数の参加者を得て開催できたものの、スポーツ教室については種目によって参加者が集まらずに開催できない事があった。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 長期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了	
改善方法	スポーツ教室について、より参加しやすい内容・日程等を検討する。また総合型地域スポーツクラブ「みんスポクラブ」の自主運営意識の向上を促し、市民自らがスポーツに携わる意識の醸成を目指す。	評価点	A	見直し額	-21 千円

事業の評価	市民の健康志向の高まりによりスポーツ熱は高まっているが、市民のスポーツの参加熱は、現状維持の状態と判断できる。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 長期見直し	<input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了	
改善方法	中高齢者の健康とスポーツの関連性を明確し、誰もが参加できるよう、もう一歩工夫を施す必要がある。	評価点	B	見直し額	-21 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	越前大野名水マラソン開催事業	含まれる事業数	1	所属	教育委員会	課(室)	スポーツ課	係	社会体育係	
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革 活力あるスポーツ社会の実現	事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他 <input checked="" type="checkbox"/> 市単独	事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	22年度 経過年数 3年	終了 予定 年度	年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	大野市スポーツ振興計画									

対象	一般市民	意図	マラソン大会を通じて、生涯スポーツ社会の実現と市民の相互交流の場づくり
事業目的			
事業内容	市内外から多くのランナーが参加する越前大野名水マラソン大会をさらに充実させ、名水のまち大野を全国にPRする。		

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均値(%)	行政改革推進プラン 2事務事業の整理合理化 (3) 補助金等の整理合理化 状況 環境の悪化	
当初予算額	14,500	17,000	16,000	18,000	6.5%	近年のマラソンブームも手伝って、市外・県外を問わず参加者はますます増加傾向にある。大会規模も大きくなる上、参加者の増加に伴い要望も多様になってきており、大会運営にかかわる役員、ボランティアが十分に確保できないのが現状である。	
3月現計予算額	14,500	17,000	16,000	18,000	6.5%		
決算額(執行済額)	13,419	17,000	16,000	18,000	8.6%	事業開始後の見直し状況 平成21年度までは、各種大会開催事業の一部として予算化していたものを、平成22年度より単独で別事業とした。 指標設定の考え方、種別見直し等	
財源内訳	国庫支出金						
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源	5,943	12,749	14,172	8,000		
総計	7,476	4,251	1,828	10,000			
国庫・県支出金名称							
その他特定財源名称	名水マラソン参加料、スポーツ振興くじ助成金						
活動指標	実行委員会開催	3	3	3	3	0.0%	事業の成果として、大会申込み者数を評価する。
						#DIV/0!	
成果指標	大会参加者数	3,963	3,651	4,107	5,000	6.8%	#DIV/0!

公共関与の必要性	本大会は、市・体育協会共催であり、大会の成功には市を挙げて取り組むことが不可欠な現状にある。
有効性	市民等のニーズとの一致 大会での要望・意見は大会運営レベルでのものがほとんどであり、その都度、検討・改善を図っている。
	目的達成状況 今年度も目標を大きく上回る申込みがあった。
効果性	事業内容、手法、統合の検討 本市のマラソン大会は本大会のみであるため、統合の余地はない。経費の増加をおさえ大会の質をあげるためには、市民の「もてなしの心」意識を高め、より多くのボランティアの協力が必要である。
	事業費削減の検討 本市を代表するスポーツイベントとして定着しており、申込み者数も増加傾向であるため、会場設営・運営にかかる経費の削減は困難である。
	民間委託(公設民営を含む)、市民協働の可能性 大会の企画や運営、ボランティアの募集など業務が多岐にわたり、多くの団体との調整が必要であることから民間委託は難しい。市民ボランティアや沿線地区による「彩り運動」や体協加盟団体による競技役員協力など、市民との協働を行っている。
総合評価	現状分析及び残された課題 事業実施については予定通り適正に行うことができたが、今後はより多くの申込み者が見込まれるため、「市をあげての大会」という意識を市民全体に広め、多くのボランティアを募る工夫が必要である。

中間評価	実施状況 過去最高4,107名のエントリーで大会を開催した。	事業評価 今年度も目標を大きく上回る申込みがあった。	改善方針 第50回大会を記念大会とするため、大野らしい大会運営等を検討する。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
------	-----------------------------------	-------------------------------	---	-----	--

一次評価	事業の評価 市最大のスポーツイベントであるとともに、市外県外から多数の来客を迎える観光イベントでもある。また、平成30年福井国体へ向けた、機運の上昇を促す絶好の事業である。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針 年々増加する参加者とは反し、運営ボランティアの確保に苦慮している。市体育協会や関係団体との連携を強化し市民全体の関心を高める方策を検討する。		見直し額 1,400 千円

一次評価	事業の評価 市民や参加者からの期待度は大きく、事業継続の必要性は高い。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
	改善方針 運営をスムーズにするため、ボランティア、警察・道路管理者などの全面的な協力体制を得られるよう努力を要す。		見直し額 1,400 千円

平成24年度事務事業評価シート

会計区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般会計 <input type="checkbox"/> 特別会計 <input type="checkbox"/> 企業会計
------	--

事業名	各種大会開催事業	重複する事業数	8	所属 部(局)	教育委員会	課(室)	スポーツ課	係	社会体育係
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 実行予算 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他	事業開始年度	年度	終了年度	年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	大野市スポーツ振興計画								

対象	一般市民	意図	各種大会を通じた生涯スポーツ社会の実現と市民の相互交流の場づくり
----	------	----	----------------------------------

事業内容
 スポーツ振興及び地域住民の交流を図るため、市民総合体育大会（夏季・冬季）を開催する。
 競技力向上を図るため、各種市民大会等を開催する。

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均値(目標)	行政改革推進グラフ	
当初予算額	4,699	4,729	4,977	5,000	2.0%	状況：環境の悪化	
3月現計予算額	4,699	4,729	4,977	5,000	2.0%		
決算額(執行済額)	4,529	4,669	4,513	5,000	3.0%	市民総合体育大会に代表される地区対抗大会においては、各地区での選手集めに苦慮する姿が見取れる。これらは、現代人のスポーツに対する価値観の多様化や個人主義が少なからず影響している結果といえる。	
国庫支出金						事業開始後の見直し状況	
県支出金							
地方債							
その他特定財源	445	457	491	450		今年度より、市長杯争奪高等学校野球大会を坂井地区との合同開催とし、委託から事業補助とした。	
繰越金	4,084	4,212	4,022	4,550			
国庫・県支出金名称	スポーツ大会参加料(加みかすり、奥越ふれあい駅伝、九頭竜杯)					指標設定の考え方、予算化経緯	
その他特定財源名称	スポーツ大会参加料(加みかすり、奥越ふれあい駅伝、九頭竜杯)						
活動指標	大会委託団体数	3	3	2	2	-16.6%	大会を開催するための運営を委託する団体数
成果指標	大会開催数	30	31	30	30	0.0%	大会が開催されることにより、市民のスポーツ参加が促進される。

公共関与の必要性	スポーツ基本法により、地域の特性に応じたスポーツ振興施策を策定し、実施することが市の責務として定められている。また、市スポーツ推進計画に、各種大会を開催することが具体的施策として明記されている。
有効性	<p>市民等のニーズの一致</p> 参加者は、リピーターもしくは競技団体関係者であり、新規で参加する市民はあまりいない。
目的達成状況	当初予定している大会は予定通り開催できる見込みである。
事業内容、手法、経費の検討	奥越ふれあい駅伝については、年々申込み者数が増加しているが、その他の大会については、参加人数が横ばいもしくは減少傾向であり、大会のあり方そのものを検討する時期に来ている。
事業費削減の検討	今年度から、市長杯争奪高等学校野球大会は開催方法を見直し、委託から事業補助にすることで事業費が削減できた。他の大会については、市民大会としてのあり方を検討するなかで、事業費の削減についても検討していく。
民間委託(公営自営を含む)・市民協働の可能性	ほとんどの大会運営を体育協会等の団体に委託し運営している。
総合評価	現状分析及び見直された課題 参加者の減少、運営協力者の固定化を解消できるよう、より広く市民が気軽に参加できるような大会を検討する。

中間評価	事業状況 競技団体が主体となって各種大会を開催している。	事業評価 当初の予定どおり大会等を開催している。	方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方針	参加者が減少している大会等について、今後のあり方を検討する時期に来ている。		

事業の評価	競技スポーツ離れが危惧される中で、市民が気軽に参加できる大会を運営することで、競技力の向上に大きな役割を担っている。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方針	地区対抗で行なわれる市民総合体育大会については、実情に応じた種目見直しを検討する。また平成30年福井国体で当市が会場となっている競技種目での市民大会等を検討する。	評価	A
見直し額	44	千円	

事業の評価	競技力や市民スポーツ意識の向上を図るため、事業自体の必要性はあるが、残念なことに、一般市民からすれば、一部市民(スポーツ愛好者)の大会とのイメージがある。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善方針	今後も、市民の参加意識の向上を図るため、この大会の意義と理解を高める必要がある。	評価	B
見直し額	44	千円	

整理番号 511

会計区分 一般会計 特別会計 企業会計

平成24年度事務事業評価シート

事業名	学校体育施設開放事業	含まれる事業数	1	所属	部(局)	教育委員会	課(室)	スポーツ課	係	社会体育係		
総合計画	<input checked="" type="checkbox"/> 人が元気 <input type="checkbox"/> 産業が元気 <input type="checkbox"/> 自然が元気 <input type="checkbox"/> 行財政改革			事業区分	<input type="checkbox"/> 国・県 <input type="checkbox"/> 実行予算 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他			年度	経過年数	終了年度	事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	活力あるスポーツ社会の実現			事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> その他			年度	経過年数	終了年度	事務区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他
関連計画	大野市スポーツ振興計画			事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市単独 <input type="checkbox"/> その他			年度	経過年数	終了年度	事務区分	<input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> その他

事業目的	一般市民	市民のスポーツ活動の場を確保し、生涯スポーツの推進を通して市民の心身両面にわたる健康保持を図る。
------	------	--

事業内容	小学校8校、中学校4校、学びの里めいりん（体育館・プール部分）の体育館・運動場を開放する。 ・管理指導員に対する報償費支給 ・施設清掃用、体育消耗品の補充等 ・照明設備等修繕 ・体育備品の買い替え等 ・3中学校の運動場照明設備に係る管理運営
------	---

	22年度 (実績)	23年度 (実績)	24年度 (実績)	27年度 (目標)	平均伸び率	行政改革推進プラン	
当初予算額	7,768	8,169	7,636	8,500	2.6%	状況・環境の変化	
3月現計予算額	7,768	8,169	7,636	8,500	2.6%		
決算額(執行済額)	6,386	6,398	6,538	8,500	8.4%	一般団体やスポーツ少年団の活動が活発になり、近年の施設利用は増加傾向にある。これに伴い、学校の授業で使用する以上に学校体育施設備品等の消耗が多く見受けられる施設もある。	
財源内訳	国庫支出金					事業開始後の異動状況	
	県支出金						
	地方債						
	その他特定財源	2,646	2,829	2,201	3,500		
総計	3,740	3,567	4,337	5,000			
国庫・県支出金名称	学校体育施設使用料					指標設定の考え方・積算根拠等	
その他特定財源名称	学校体育施設使用料					指標設定の考え方・積算根拠等	
活動指標	学校体育施設利用延件数	8,054	6,913	7,721	7,500	-2.9%	月毎申請に対しての利用許可日数・人数により算出。
						#DIV/0!	
成果指標	学校体育施設利用延人数	170,778	136,410	146,354	165,000	-2.3%	
						#DIV/0!	

公共開身の必要性	大野市立学校体育施設の開放に関する条例に基づき、市はスポーツ及びレクリエーション活動の場を確保し、市民の心身の健全な発達に寄与しなければならない。	
有効性	市民等のニーズとの一致	利用希望数に対して施設の収容能力はほぼ限界に達している。
	目的達成状況	予定していた事業内容についてほぼ予定通り実施している。今後も必要性和有効性を念頭に効率的な事業の実施にあたる必要がある。
効率性	事業内容・手法・統合の検討	これまで必要最小限の事業規模に縮小してきており、これ以上の縮小については慎重に検討すべきである。また、ほかに類似事業がないため統合の余地はない。
	事業費削減の検討	公共サービスとして、必要最小限の事業費で対応しており、これ以上の削減はサービスの低下を招く恐れがあるため慎重に検討すべきである。
	民間委託(公設民営を含む)・市民協働の可能性	可能な限り実施している。
総合評価	現状分析及び残された課題	利用者の増加への対応や年度内の使用料完納、施設の適正な維持管理は今後の大きな課題であるが、市内の学校体育施設数を考慮すると、利用件数は現状がピークと考えられる。

中間評価	設備の老朽化による修繕等の依頼が増加傾向にあり、緊急性の高いものから優先的に対応し事業費等の制約をカバーしている。	事業評価	予定していた事業内容について、現段階では、ほぼ予定通り実施している。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
		改善策	利用者に対し、体育施設の利用上の注意喚起を徹底し、修繕経費を抑えるよう努める必要がある。		

事業の評価	学校体育施設未使用時の活用策として有効である。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善策	市民の心身の健全な発達に大きく寄与するとともに、公共施設の有効な活用法であることから、継続した事業を行なう。	評価	A
		見直し額	735 千円

事業の評価	身近な施設を有効活用することに、この事業の意義がある。事業自体の評価は高いが、相反して利用人数や施設管理上の問題もある。	方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 整理統合 <input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 縮減 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終期見直し <input type="checkbox"/> 完了
改善策	利用者の公共施設利用のマナーの向上や議会からも指摘を受けたが、受益者負担の必要性を啓発することが必要であり、今後の課題である。	評価	A
		見直し額	630 千円

整理番号 514

平成24年度事務事業評価シート

会計区分
■ 一般会計
□ 特別会計
□ 企業会計

事業名: スポーツ少年団育成事業補助
含まれる事業数: 1
所属: 部(課) 教育委員会 課(室) スポーツ課 係 社会体育係
総合計画: 人が元気 産業が元気 自然が元気 行財政改革
活力あるスポーツ社会の実現
関連計画: 大野市スポーツ振興計画

事業目的: スポーツ少年団登録団員及び指導者
事業内容: スポーツ少年団育成補助(単位団運営・指導者)
傷害保険料補助

行政改革推進プラン
当初予算額: 685
3月補正予算額: 685
決算額(執行済額): 685
国庫支出金: 685
地方債: 685
その他特定財源: 685
単位団数: 28
登録団員・指導者数: 748

公共関与の必要性: 日本スポーツ少年団、県スポーツ少年団を通した一元的な青少年育成及び青少年スポーツ振興を推進するためには、県内市町が協力しながら各団を支援し、必要とあれば指導する必要がある。
有効性: 目的達成状況: 各補助事業は例年並みに実施している。登録団数、登録指導者数は現状を維持しているが、団員数は減少傾向にある。
事業内容、手法、統合の検討: スポーツ少年団活動はトップアスリート養成をはじめとした競技スポーツ向上以外にも青少年の心身の健全育成という重要な役割を担っているため、最低でも現状の規模を維持し、今後の事業拡大の余地もある。
効果性: 事業費削減の検討: 今後の登録数の動向や、補助金の算出基礎額の変更(スポーツ安全保険料の値上げ等)により、検討の必要があるが、現状を維持するのであれば削減余地はない。
民間委託(公設民営を含む)・市民協働の可能性: 民間委託については、現状では可能性は無し。市民協働については、指導者協議会等と共同で事業を実施するなど、可能な限り図っている。
総合評価: 現状分析及び改善された課題: 本事業が各少年団の幅広い活動とこどもの体力向上を支えているといえるが、少子化の波は大きく、青少年を取り巻く社会的・家庭的な環境も大きく変化しており、今後の更なる活動普及とときめ細かい指導が求められている。各単位団毎の活動は充実したものであるが、少子化問題を踏まえた近來のスポーツ少年団のあり方を、再検討する必要がある。

中間評価: 実施状況: 各補助事業は例年並みに実施している
方向性: 現状維持
□ 拡充
□ 縮減
□ 終期見直し
□ 整理統合
□ 廃止
□ 休止
□ 完了

事業の評価: 人口減少・少子化に伴い団員数は減少しているものの、団数・指導者数は維持しており活動は盛んである。また全国規模の大会で活躍するジュニアアスリートをスポーツ少年団から輩出している。
改善方策: 青少年の健全な育成は元より、心身共にたくましい人間形成には少年期の活動が重要である。また平成30年福井国体の開催に向けた競技力の向上に大きな役割を担うジュニア期の活動は重要であり、より質の高い活動ができるよう支援する。
方向性: 現状維持
□ 拡充
□ 縮減
□ 終期見直し
□ 整理統合
□ 廃止
□ 休止
□ 完了
見直し額: 135 千円

事業の評価: スポーツの底辺拡大の観点から、この事業の評価は高いと考える。また、指導者の確保や指導者数の拡大を図るためには、継続あるいは拡大を視野に入れるべき。
改善方策: 指導者の確保のための待遇改善
方向性: 現状維持
□ 拡充
□ 縮減
□ 終期見直し
□ 整理統合
□ 廃止
□ 休止
□ 完了
見直し額: 135 千円

整理番号 516

平成24年度事務事業評価シート

会計区分
[] 一般会計
[] 特別会計
[] 企業会計

事業名 全国大会等出場参加補助 含まれる事業数 1 所属 部(局) 教育委員会 課(室) スポーツ課 係 社会体育係

総合計画
[] 人が元氣 [] 産業が元氣 [] 自然が元氣 [] 行政改革
事業区分
[] 国・県 [] 実行予算 [] 補助金 [] その他
[] 市単独 [] その他

関連計画
大野市スポーツ振興計画

対象 蕨園
事業目的
全国大会に出場する団体及び個人
全国大会に出場する旅費と宿泊費の一部を補助し、出場選手の経費負担を軽減する

事業内容
スポーツ競技力の向上を図るため、全国大会等に出場する団体又は個人に対して出場経費(旅費・宿泊費)の一部を補助
【補助対象】
・県大会で選抜されて出場する7都道府県以上の規模の大会(ブロック大会)
・県大会またはブロック大会で選抜されて出場する全国大会
【補助率】
・小中学生の団体又は個人 1/2
・一般の団体又は個人 1/3

Table with columns for fiscal years (22, 23, 24, 27), budget types (National, Local, etc.), and performance indicators like '補助金額(千円)' and '補助件数(件)'.

公共関与の必要性
全国大会等レベルの高い大会に出場することは、競技力の向上につながる。
有効性
市民等のニーズとの一致
目的達成状況
前年度よりやや少ない補助件数が見込まれる。
効果性
事業内容・手法、統合の検討
事業費削減の検討
民間委託(公営民営を含む)・市民協働の可能性

中間評価
実施状況
前年度よりやや少なくなる見込み
事業評価
競技力向上には選手への財政的負担への支援は不可欠であり、今後続けたいべき事業である。
改善方策
類似する事業との統合も視野に入れた、新たな強化策の検討

一次評価
事業の評価
全国規模の大会等への出場を補助することで、選手の育成を図り市全体の競技力向上につながっている。
改善方策
継続した補助をすることでトップアスリートを育成する体制づくりを行なう。平成30年福井国体に向けた競技力の向上を目指す。

二次評価
事業の評価
市民のスポーツ競技力の向上と個々の選手の意欲を高めるために、この事業の必要性は高い。
改善方策
市民の理解度が鍵になる。

整理番号 517

平成24年度事務事業評価シート

会計区分 ■ 一般会計 □ 特別会計 □ 企業会計

事業名: スポーツ交流大会開催事業補助
総合計画: 人が元氣 産業が元氣 自然が元氣 行財政改革
関連計画: 活力あふれるスポーツ社会の実現
大野市スポーツ振興計画

事業目的: スポーツ競技団体
技術の向上を目指した競技会の開催

事業内容: 県内外の優秀なチームを招くスポーツ大会の運営費の一部を補助することで、青少年相互の親善と技術の向上を図り、健全なスポーツ精神の高揚に資する。
・県外チーム等招待大会の運営費補助
・市内宿泊施設に宿泊した選手・監督の人数×500円

Table with columns for years (22年度, 23年度, 24年度, 27年度) and rows for budget items like '当初予算額', '3月現計予算額', '決算額', and '補助対象大会数'.

公共関与の必要性: 県内外の優秀なチームが市内に宿泊し、市内の選手と交流を図ることは、青少年相互の親善と競技技術の向上を図るとともに、市の活性化にも有効である。
有効性: 大会を実施するにあたっては、主催者の経費負担が大きく、大会を継続していくため財政支援が求められている。
効果性: 各種目において、県内外のチームとの交流が盛んになっており、補助対象大会の増加によって事業費が拡大する可能性はある。

中間評価: 前年度並みの補助状況である。
事業評価: 例年並みに実施している。
改善方針: 毎年同様の大会への補助が続いている。新規大会の呼びかけが必要である。

一次評価: 市外の優秀なチームを招くことで、レベルの高い経験を積むことができ競技力の向上が期待できる。また地元で行う事で、選手は元より運営に携わる者の競技スポーツへの理解を深めるとともに、市全体のスポーツ精神の育成につながる。
改善方針: 平成30年福井国体の開催に向けた競技力向上に努めると共に、交流人口の増加に資する中心市街地の活性化策としての事業展開を視野に入れた方向性の検討を行なう。

二次評価: 本市の競技力向上の観点から、対外的な交流は不可欠と考える。スポーツも全国レベルに近づけることが、底辺の拡大と青少年の交流促進に寄与する。
また、本市に滞在いただくことで、交流人口の増にも貢献する事業である。

V 学識経験者の意見

1 評価委員会

平成20年4月から地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正により、教育委員会に、その権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価報告書を作成することが義務付けられた（第27条）ところですが、併せて、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験者の知見を活用することが求められています。（第27条第2項）。

法改正の主旨を踏まえ、大野市教育委員会では、次の方々に平成25年度の『点検・評価報告書』に関する意見をいただくこととしました。

評価委員（敬称略）

氏名	現職（元職）	専門分野等
井上 武史	福井県立大学地域経済研究所講師	地方行政、事務事業評価
小林 利剛	（図書館長、有終西小学校長）	学校教育、社会教育
石原 里美	大野市美術展運営委員会委員	芸術・文化振興

教育について学識経験を有する方の知見の活用については、点検及び評価の客観性を確保するため、点検・評価報告書の内容に関し、学識経験者から意見を聴取する機会を設け、ご意見をいただくことになっています。

大野市教育委員会では、平成25年8月9日（金）に評価委員会を開催し、評価委員の方々に、教育委員会の実施した事業について関係課長が事業内容の説明を行った後、意見交換を行いました。

この結果を踏まえ、教育委員会で作成した点検・評価報告書に対し、評価委員の方々より次頁のとおりご意見をいただきました。

2 点検評価報告書について

福井県立大学地域経済研究所講師 井上 武史

意見を述べるのは今回で5回目になるが、事業だけでなく評価内容も着実に改善されてきている。これまで指摘してきた意見を大野市が積極的に反映しながら、評価時期を見直して現年度評価とするなど、全市を挙げて実効的な評価と市民への説明責任を果たすための制度として改善を重ねてきた結果であると考えられる。まず、この点について高く評価したい。

その上で、今後改善を要する点もあると思われるので、細かい部分も含めていくつか指摘する。

まず、評価基準をAからDの4段階に分けて各事業の評価を行うことは良いのだが、C（やや不適切（不十分）であった）とD（不適切（不十分）であった）の評価が教育委員会の所管事業に存在しないことである。すべての事業が良好な結果であったのは好ましいことだが、このことが評価帳票のなかで市民に十分な説得力を持ってすべて説明されているとは限らない。そのため「自己評価が甘いのではないか」「悪い部分を隠しているのではないか」との疑念を市民が抱く可能性もあり、そうすると評価全体への信頼性を低下させる要因になりかねない。事業の問題点を示すことは良否を判断する材料としてではなく、結果を次に活かすためのものとして捉えるべきである。

このことに関連して、評価基準の重点化を提案したい。現行制度では①公共関与の必要性、②有効性、③効率性の3つの視点から評価を行うことになっているが、①と③は予算編成や議会審議の段階で慎重に吟味されているはずである。したがって、①と③は予算の段階で高く評価されたとみなして、本帳票ではそれほど重視する必要はない。評価段階では何よりも事業の結果が問われるのだから、予算段階では分からない②が最も重要であろう。そこで、評価の際は有効性、とりわけ活動指標や成果指標の状況に絞って評価してはどうだろうか。指標は数値で表現されるため、目標と結果の状況によってA～Dの評価を分かりやすく行うことができるようになる。

もちろん公共関与の必要性や効率性の評価が不要というわけではない。しかし、評価の意義や予算編成過程の存在を考えると、②により重点を置いた評価が必要であろう。

次に、評価対象事業の選定については、昨年度も対象となった事業が大半となっており、新たな事業が少ないことである。今回は教育委員会の全129事業のうち26事業が評価対象となっているが、このなかで昨年度も対象となったのが22事業と8割以上を占めている。確かに継続的に評価すべき事業もあるが、ややバラ

スに欠けているのではないか。新たな対象事業が3割くらいあっても良いと考えられる。

また、先の指摘とやや矛盾するが、数値目標に含まれない取り組みも積極的に評価することも重要である。例えば、生涯学習や文化、スポーツについては、施設の利用者や講座の受講者など参加者数の大きさが数値目標となっている。これらは分かりやすいのだが、利用者や受講者の固定化・高齢化という現象が共通して進んでおり、新たな利用者や受講者の開拓も数値目標には直結しないものの、長期的には重要な課題になるだろう。今後、新たな利用者や受講者の開拓を実験的に行う取り組みを積極的に実施し、それに対する評価も行っていたきたい。

今回は3つの点を指摘した。大野市教育委員会の事業評価は市全体の評価の一部となっているので、必要に応じて市全体の取り組みとして見直しを行う必要があるだろう。教育委員会が市の評価担当部局との連携を深めることによって、さらに質の高い評価へと進まれるよう期待したい。

元有終西小学校長・元図書館長 小林 利剛

関係法令の一部改正に伴い、平成20年度から実施されてきた事務管理及び執行の点検・評価と、結果に関する作成された報告書について、今日まで年度を追うごとに多くの改善がなされてきている。

特に、今年度は、課題と今後の方向性について、それぞれの事業ごとに特記されている点、具体的で分かり易く、取組みに真摯な姿勢が表れていて評価できる。

また、地域・人づくり学習事業が全ての公民館で実施されてきて久しい。今、改善に向けて講座・学級の内容、開催の方法を見直す必要があると認識されている中で、平成24年度末の各公民館の嘱託職員の大幅な人事異動は特筆すべきであろう。地域住民のニーズに十分に応えるという意味では、最初はマイナス面もあるかもしれないが、事業の計画・立案に際し、新鮮な発想で取り組みことが出来る試金石になりそうに思える。

今後は、5年をめぐりに人事交流を行う予定とのことであるが、その効果には大いに期待している。

評価対象事業についてみたとき、毎年どのように選定してきたのか疑問が残る。文面では、「目標を達成するため、課ごとに特に重要な事業、市民が関心を持っている事業」となっているが、果たして理解されるだろうか。行政側に偏った事業の選定のように取られはしまいか気がかりである。129事業の中には不適切（不十分）な事業が隠れていそうに思える。

細部になるが、「評価の仕方は管理運営経費や補助事業などを除く主要事業」と設定しているが、補助事業を国県等補助事業と記すべきである。

また、特別支援教育推進事業で各学校に配置される支援員の役割は、あくまでも教師への支援であって、児童・生徒の指導者ではないことを明記すべきであろう。

大野市美術展実行委員 石原 里美

大野市教育委員会の平成25年度（平成24年度分）の事業の管理及び執行状況の点検・評価報告書は、重点施策をあげ、より分かり易く各課の事業に対する取り組みが理解できる。今年度もまた個々の事業成果が高く評価されている。

しかし、近年、評価の四段階を少々意識しすぎているのではないだろうか。シートの中で方向性に「現状維持」「見直し」「廃止」等8種類ある中「現状維持」が多く、総合評価も「A」に集中していることは気になるところだ。

今回、社会教育課の実施している事業で、生涯学習人材活用などは、毎年、社会的流行などにより人気のある講座等の内容が変わってくる。近年、特に健康志向に中高年の多くが興味を持っていることもあり、登録している指導者にも偏りが出るのは当然である。市民のいろんなニーズに応えるためには、多くの指導者の登録が必要であると思う。若年層の指導者を増やすことも望ましいと思うが、一度、データの収集、登録者へのアンケートなど指導者に対して前向きな対応もあっていいと思う。そのためにも、一度、整理してみてもいいかなものだろうか。

文化課の事業も文化公演、市美展等、他の課同様『市民を元気にする！』事業が多い。今の時代、1年に多くの事業を行うよりも、少数でも質の高いものを提案してみてもどうであろう。大野市民の質を上げる必要があるのではないだろうか。老若男女、いろんな年齢層と関わるのだから、一人でも多くの方が興味を持ち“参加してみたい”と意欲を持てるような事業を進めて欲しい。

『人が元気』をモットーにするならば、事業の方向性に自信を持ち、評価にとらわれず、長期化できるよう、また、更なる発展が望めるよう努めていただきたい。

教育委員会に4課あるが、「教育委員会」と聞いただけで、市民が堅苦しく感じるようでは、いつになっても市民の関心を得るのは難しい。

『明倫の心は、いつの時代においても変わらない大野の学びの原点』ならば、常にアンテナを市民全体に向けていただき、引き続き、市民を主体とした事業に取り組んでいただけるよう願います。

VI 終わりに

平成25年度教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書の作成にあたっては、平成24年度中より各課課長補佐、係長による打ち合わせを5回行い、点検・評価の考え方を念頭に置きながら準備を進めてきました。その中で、昨年度、評価委員よりいただいた意見を参考にいくつかの改善を行いました。

大きな改善内容としては、平成24年度の報告書は、主要事業の〔実施状況〕の記載にとどまっていたましたが、新たに〔成果指標の達成状況〕、〔課題と今後の方向性〕を追加しました。このことは、市民にとって分かり易いだけでなく、担当者にとっても、実績に基づき課題を整理する良い機会となりました。

また、画一的になっていた評価シートも、分かりやすい表現に改めました。

評価委員会につきましては、8月に開催し、本年度の報告書について審議いただき、これらの改善について評価委員から評価を得ましたが、次の新たな指摘、提案をいただきました。

一つに、総合評価が、「A」評価に集中している、「C」評価や「D」評価がないということ。

二つに、有効性に重点を置いて評価をしてはどうかということ。

三つに、評価対象事業の選定について、「偏っている」、「新規事業が少ない」、「数値目標に含まれない事業の選定も検討してはどうか」といったことです。

この報告書の評価シートは、大野市の事務事業評価システムのシートをそのまま引用していることから、指摘事項の中には他部局と調整、協議の必要なものもありますが、教育委員会内部の課題については、その解決に向けて取り組んでまいります。特に、評価対象事業の選定については、「住民への説明責任を果たす」（本文1頁）という目的達成のためにも、選定する対象事業を広げていく必要があると考えております。

そのほか、事業内容についての貴重な提案もいただきましたので、事業を進める中で反映させていただき、より良い事業となるよう改善してまいります。

関係法令

<地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）>

（平成19年6月27日改正 平成20年4月1日施行）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第27条 教育委員会は、毎年その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

<地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律について（抜粋）>

（19文科初第535号 平成19年7月31日 文部科学事務次官通）

第一 改正法の概要

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととしたこと。点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとしたこと。（法第27条）

第二 留意事項

1 教育委員会の責任体制の明確化

(3) 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価

- ① 今回の改正は、教育委員会がその権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていく趣旨から行うものであること。
- ② 現在、すでに各教育委員会において、教育に関する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会に報告するなどの取組みを行っている場合には、その手法を活用しつつ、適正に対応すること。
- ③ 点検及び評価を行う際、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることについては、点検及び評価の客観性を確保するためのものであることを踏まえ、例えば、点検及び評価の方法や結果について学識経験者から意見を聴取する機会を設けるなど、各教育委員会の判断で適切に対応すること。

平成24年度に事務事業評価の対象となった教育委員会関係の全事業

(網掛けは・本年度評価対象事業)

No.	担当課	事業名称	事業費（千円）及び総合評価の比較					
			平成24年度		平成23年度		平成22年度	
			事業費	二次評価	事業費	二次評価	事業費	二次評価
1	教育総務課	学校評議員制度運営経費	540	A	570	A	557	A
2	教育総務課	ふるさと文化創造事業	530	A	819	A	1,098	A
3	教育総務課	国際理解教育推進員配置事業	4,684	A	5,673	A	6,034	A
4	教育総務課	適応指導教室事業	6,195	A	6,062	A	5,860	A
5	教育総務課	非常勤講師配置事業	3,142	A	3,982	A	1,777	A
6	教育総務課	心の教室相談員配置事業	6,336	A	7,035	A	2,251	A
7	教育総務課	活力ある学校づくり推進事業	3,543	B	3,193	B	3,163	B
8	教育総務課	特別支援教育支援事業 ※1	23,206	A	14,549	A	10,942	A
9	教育総務課	スクールソーシャルワーカー配置事業	623	A	720	A	-	
10	教育総務課	食育推進事業	273	B	216	A	143	A
11	教育総務課	小中学校連合音楽会事業	495	B	476	A	493	A
12	教育総務課	小学校連合体育大会事業	813	A	900	A	900	A
13	教育総務課	中学校体育実技研修事業	880	B	880	A	880	A
14	教育総務課	(低学年)学校生活サポート推進事業	115	A	308	A	411	A
15	教育総務課	コア・ティーチャー養成事業	109	A	330	A	395	A
16	教育総務課	小中学校補導連絡協議会補助	70	B	42	A	70	A
17	教育総務課	小中学校校長会補助	130	B	130	A	130	A
18	教育総務課	小中学校教頭会補助	60	B	60	A	60	A
19	教育総務課	特別支援教育研究会補助	60	B	60	A	60	A
20	教育総務課	へき地・小規模教育研究会補助	60	B	60	A	60	A
21	教育総務課	学校教育研究会補助	110	A	110	A	110	A

22	教育総務課	小学校体育振興連盟各種大会参加補助	135	B	135	A	135	A
23	教育総務課	中学校体育連盟各種大会参加補助	1,418	B	2700	A	2,630	A
24	教育総務課	学校保健会大野分会補助	62	B	62	A	62	A
25	教育総務課	大野高校定時制教育振興補助	255	B	255	A	260	B
26	教育総務課	児童・生徒全国大会等出場補助	1,164	A	1,329	A	1,661	A
27	教育総務課	日本スポーツ振興センター負担金	2,538	A	2,625	A	2,726	A
28	教育総務課	奥越地区中学校体育連盟負担金	658	B	658	A	658	A
29	教育総務課	奥越地区学校結核対策委員会負担金	70	B	78	A	71	A
30	教育総務課	自治体国際化協会会費	72	A	72	A	72	A
31	教育総務課	小学校スクールバス運行事業	12,242	A	13,863	A	7,436	A
32	教育総務課	養護学校就学措置事業	14,988	A	14,942	A	14,661	A
33	教育総務課	要保護・準要保護児童生徒就学援助事業(小)	8,413	A	8,540	A	7,124	A
34	教育総務課	特別支援教育就学奨励事業	1,096	A	1,286	A	1,004	A
35	教育総務課	遠距離通学補助	918	B	949	A	923	A
36	教育総務課	中学校スクールバス運行事業	12,458	A	13,405	A	13,396	A
37	教育総務課	要保護・準要保護児童生徒就学援助事業(中)	9,183	A	10,234	A	7,543	A
38	教育総務課	特別支援教育就学奨励事業	498	A	265	A	615	A
39	教育総務課	私立幼稚園就園奨励費補助	2,856	A	3,253	A	2,973	A
40	教育総務課	私立幼稚園振興補助	683	A	882	A	648	A

以上・教育総務課分40事業

(※1) 事業名変更

No.	担当課	事業名称	事業費（千円）及び総合評価の比較					
			平成24年度		平成23年度		平成22年度	
			事業費	二次評価	事業費	二次評価	事業費	二次評価
41	社会教育課	青少年問題協議会経費	92	A	77	B	76	B
42	社会教育課	生涯学習人材活用事業	1,133	A	1,144	A	1,066	

43	社会教育課	生涯学習推進事業	705	B	879	B	792	B
44	社会教育課	家庭教育推進事業	168	B	239	B	162	B
45	社会教育課	少年教育推進事業	307	A	283	B	683	B
46	社会教育課	青年活動推進事業	1,785	A	1,585	A	1,085	B
47	社会教育課	青少年健全育成推進事業	1,600	A	1,700	B	1,700	A
48	社会教育課	成人式事業	1,026	A	976	A	1,032	B
49	社会教育課	ふるさと大野今昔物語事業（新規）	2,528	A				
50	社会教育課	まちむらづくり運動推進事業	886	A	885	B	883	B
51	社会教育課	人権同和教育推進事業	449	A	426	B	429	B
52	社会教育課	視聴覚教育・IT活用推進事業	414	B	562	B	408	B
53	社会教育課	放課後子ども教室事業	8,612	B	8,309	A	8,496	A
54	社会教育課	こころの豊かさ再発見事業	56	A	45	B	9,350	B
55	社会教育課	連合ふわ女性会補助	720	B	720	B	720	B
56	社会教育課	P T A連合会補助	190	B	190	B	190	B
57	社会教育課	ボーイスカウト補助	116	B	116	B	116	B
58	社会教育課	子ども会育成連合会補助	180	A	180	B	180	B
59	社会教育課	壮年団体連絡協議会補助	280	A	180	B	180	B
60	社会教育課	生活学校補助	80	B	80	B	80	B
61	社会教育課	男女共同参画ネットワーク補助	180	B	180	A	180	B
62	社会教育課	全国生涯学習市町村協議会会費	30	B	30	B	30	B
63	社会教育課	地区団体連絡協議会活動促進補助	8,500	A	8,500	B	8,259	B
64	大野公民館	地域・人づくり学習事業	1,290	A		B		
65	下庄公民館	地域・人づくり学習事業	373	A		A		
66	乾側公民館	地域・人づくり学習事業	446	A		B		
67	小山公民館	地域・人づくり学習事業	520	A		A		

68	上庄公民館	地域・人づくり学習事業	604	B		B		
69	富田公民館	地域・人づくり学習事業	699	A		A		
70	阪谷公民館	地域・人づくり学習事業	672	A		A		
71	五箇公民館	地域・人づくり学習事業	257	A		A		
72	和泉公民館	地域・人づくり学習事業	664	A		B		
		地域・人づくり学習事業（全公民館計）	(5, 525)	A	(5, 393)	B	(5, 075)	B
73	図書館	読書推進事業	578	A	371	B	370	B
74	図書館	子どもの読書活動推進事業	1, 015	A	976	A	975	A
75	図書館	日本図書館協会負担金	37	A	37	B	37	B
76	図書館	福井県郷土史懇談会負担金	4	B	4	B	4	B

以上・社会教育課分36事業

No.	担当課	事業名称	事業費（千円）及び総合評価の比較					
			平成 24 年度		平成 23 年度		平成 22 年度	
			事業費	二次評価	事業費	二次評価	事業費	二次評価
77	文化課	市美術展開催事業	674	B	633	A	508	A
78	文化課	市総合文化祭開催事業	1, 170	B	1, 142	A	1, 142	A
79	文化課	文化発信事業	862	A	2, 500	A	1, 251	A
80	大野公民館	文化講座開催事業	220	A		A		
81	下庄公民館	文化講座開催事業	75	B		A		
82	乾側公民館	文化講座開催事業	126	B		A		
83	小山公民館	文化講座開催事業	133	A		A		
84	上庄公民館	文化講座開催事業	175	A		A		
85	富田公民館	文化講座開催事業	156	B		A		
86	阪谷公民館	文化講座開催事業	81	B		A		
87	五箇公民館	文化講座開催事業	79	B		A		

88	和泉公民館	文化講座開催事業	56	A		A		
		文化講座開催事業（全公民館計）	(1,101)	(B)	(946)		(896)	
89	文化課	文化公演事業	7,135	B	4,278	A	3,496	A
90	文化課	地域文化振興事業	469	B	474	A	-	-
91	文化課	高等学校全国大会出場激励費	60	B	0	A	0	B
92	文化課	文化協会補助	180	B	180	A	180	A
93	文化課	文化団体全国大会派遣事業補助	110	B	0	A	14	A
94	文化課	文化財保護審議会経費	331	B	541	A	286	A
95	文化課	歴史的建造物保存整備事業	5,040	A	3,571	-	1,115	-
96	文化課	文化財環境保全整備事業	534	B	512	-	891	-
97	文化課	歴史民俗資料整備事業	0	B	300	-	0	-
98	文化課	埋蔵文化財発掘調査事業	113	B	206	A	52	A
99	文化課	無形文化財保存育成事業補助	340	A	340	A	370	A
100	文化課	全史協北信越地区協議会負担金	10	B	10	B	10	B
101	文化課	全国史跡整備市町村協議会負担金	40	B	40	B	40	B
102	文化課	全国民俗芸能保存振興市町村連盟会費	15	A	15	B	-	-
103	市史編さん室	市史編さん事業	10,225	B	8,027	A	8,547	B
104	市史編さん室	市史発刊事業	6,651	A	-	-	-	-
105	本願清水イトヨの里	イトヨ保護研究事業	855	A	351	A	363	A
106	本願清水イトヨの里	イトヨ保護啓発推進事業	293	B	1,060	A	425	A
107	博物館	全国城郭管理者協議会負担金	25	A	25	B	25	B

以上・文化課分31事業

No.	担当課	事業名称	事業費（千円）及び総合評価の比較								
			平成24年度		平成23年度		平成22年度				
			事業費	二次評価	事業費	二次評価	事業費	二次評価			

108	スポーツ課	スポーツ推進委員会経費	1,416	A	693	B	998	B
109	スポーツ課	生涯スポーツ推進事業	2,210	B	2,210	B	2,096	B
110	大野公民館	生涯スポーツ推進事業	0	A	0		0	
111	下庄公民館	生涯スポーツ推進事業	0	A	0		0	
112	上庄公民館	生涯スポーツ推進事業	0	A	0		0	
113	小山公民館	生涯スポーツ推進事業	0	A	0		0	
114	富田公民館	生涯スポーツ推進事業	0	A	0		0	
115	五箇公民館	生涯スポーツ推進事業	0	B	0		0	
116	スポーツ課	越前大野名水マラソン開催事業	16,000	A	17,000	A	13,419	A
117	スポーツ課	各種大会開催事業	4,513	B	4,669	A	4,529	A
118	スポーツ課	学校体育施設開放事業	6,538	A	6,396	A	6,386	A
119	スポーツ課	競技力向上対策事業	4,288	A	4,232	A	3,873	A
120	スポーツ課	全国大会等出場激励費	655	A	670	A	315	A
121	スポーツ課	スポーツ少年団育成事業補助	665	A	674	A	685	B
122	スポーツ課	体育協会補助	2,750	A	2,750	B	2,745	B
123	スポーツ課	全国大会等出場参加補助	1,285	A	1,453	B	1,032	B
124	スポーツ課	スポーツ交流大会開催事業補助	359	A	431	A	409	A
125	スポーツ課	ジュニアクラブ活動促進補助	100	B	100	A	100	A
126	スポーツ課	わんぱく相撲大野場所開催事業補助	140	A	140	A	140	A
127	B&G海洋センター	海洋センター活用促進事業	448	B	515	B	210	B
128	B&G海洋センター	少年の船参加事業補助	50	C	20	B	-	B
129	B&G海洋センター	B&G財団北陸ブロック連絡協議会負担金	10	B	10	B	10	B

以上・スポーツ課分22事業

単位は千円未満切り上げ

大野市教育理念について

大野市教育委員会では、人づくりの根幹は教育であるという考えのもと、平成21年3月、大野市の全ての分野において取り組む基本となる「大野市教育理念」を次のとおり決めました。

明倫の心を重んじ 育てよう おおのびと 大野人

人としての生きる道を明らかにし、進取の気象を育てた明倫の心は、いつの時代においても変わらない大野の学びの原点です。

私たちは、この心を大切に、優しく、賢く、たくましい大野人になるため、学び、育てることに努めていきます。

平成21年3月 大野市教育委員会

明倫（めいりん）とは

大野藩7代藩主土井利忠（1811～1868年）は、藩の政治や経済の建て直しには、新しい知識を学んだ人材が必要であるという考えに基づき、弘化元年（1844年）に藩校「明倫館」を開設しました。

明倫館の「明倫」という言葉は、「皆人倫を明らかにする所以なり」に由来し、人の生きる道を明らかにすること、すなわち、人として守り、行うべき道を明らかにすることを指しています。

明倫館は、当時としては珍しく、武士の子弟に限らず、広く一般家庭の子供たちにも門戸を開いて学ばせていました。そして、ここで育った人材は、大野藩の商業や鉱業などを盛んにし、藩財政の再建に大きく貢献したといわれています。私たちは、この史実に基づいて、大野の教育の全てを貫く普遍の理念を「明倫」と決めます。

大野市教育委員会では、これからも機会をとらえ、この理念がめざす社会が実現するよう、地域の教育力を高めるための努力をしていきます。

教育委員会組織図

